

2011年7月21日

夏期講習会のテキストを必ずもう一回やり直す

かいりんじゆく
開倫塾
じゆくちよう
塾長 林 明夫

はじめに

こんにちは。私は開倫塾)を32年前に創業し、現在までずっと開倫塾全体の代表である、塾長(じゆくちよう)を務(つと)める林明夫です。勉強している塾生の皆様に、効果の上がる勉強の方法を今日から毎日少しずつお伝えします。にして、この夏の間勉強の仕方を身(み)につけ、を大幅に上昇させて下さいね。読みやすいようにQandAの形で書きます。では、はじめ、はじめ。

Q：夏休みの1か月間で成績は上がりますか。急上昇しますか。

A：(1)(林明夫：以下省略)「自分は という学校に合格するのだ」と、はっきりした勉強の目的を持ち、毎日、毎日、自分に言い聞かせること、毎日、「合格」と何回も紙に書いて、「合格するのがあたりまえ」と自分に言い聞かせること。自分なりの効果の上がる勉強の仕方を身につけること。夏休みの間、長時間勉強し続けること。

(2)この ~ の3つを確実に行えば、開倫塾で夏休み中に勉強している塾生の皆様の成績は、飛躍的に上昇します。偏差値で言うなら、15 ~ 20以上アップします。

Q：合格したい学校がはっきりしないのですが...

A：(1)何かものごとをする場合には、目的を持ってするほうが、目的を持たないですのと比べて10倍以上の差が出ます。

(2)たとえ小学生でも、合格したい学校を1つはしっかり持って、毎日「高校合格」と紙に何回も書いて下さい。大学名でもOKです。例えば、小学生のうちから、毎日、「東京大学合格」と何回も紙に書き続けられ、自分にとって東京大学に合格することはあたり前のこととなり、必ず3000名余りの合格者の一人になることができます。

(3)中学1・2年生、高校1・2年生は必ず希望校名(開倫塾では、自分の行きたい高校を「一流校」と言いますので、自分にとっての「一流校」名)をはっきりと1つ持ち、「高校合格」、「大学合格」と、毎日、紙に書き続けて下さい。

(4)小学6年生の私立中学校や中高一貫校受験生と中学3年生、高校3年生の塾生の皆様全員は、毎日、何回も「合格」と自分の入学希望校名を必ず紙に書いて下さい。

(5)どこかに行くのに、行き先(目的地)をはっきりさせないで家を出る人はいません。行き先(目的地)をはっきりさせないで船を出す人はいません。自動車(じどうしゃ)を走らせる人はいません。

(6)何となく出発し、そのうちどこかに着けばよいという考えもありますが、目的地をはっきりさせ

たほう^たがたどり^どり着^りく可能性^くは高い^せと私^わは考^かえま^すす。

(7) 目的地^{もく}をは^てっきりさ^せること。た^とえ小^こ学^が生^{せい}でも行^いきたい学^が校^{こう}をは^てっきりさ^せること。中^{ちゅう}学^{がく}3年^{ねん}生^{せい}、高^{こう}校^{がく}3年^{ねん}生^{せい}ならな^らおさ^ら目的地^{もく}、つ^まり学^が校^{こう}名^なをは^てっきりさ^せ、そ^れを毎^{まい}日^{にち}、何^{なん}回^{かい}も紙^しに書^かいて、「自^じ分^{ぶん}は絶^{ぜつ}対^{たい}にそ^の学^が校^{こう}に行^いくのだ^だ」と^いい聞^きか^せること。

(8) こ^れが、こ^の夏^{せい}休^{せき}み^に成^お績^{せき}を大^お幅^{はば}に上^あ昇^{しょう}さ^せる第^{だい}一^{いち}歩^ぽです。行^いきたい学^が校^{こう}の^な前^{まえ}を毎^{まい}日^{にち}、何^{なん}回^{かい}も紙^しに書^かく。こ^れは、簡^{かん}単^{たん}にで^きま^すよ^ね。

Q : はい。や^ってみ^ます。2つ^こ目^めの「自^じ分^{ぶん}な^りの^{こう}果^かの^あが^る勉^{べん}強^{きやう}の^{しかた}を^みに^つけ^る」と^いうの^は、ど^のよ^うな^こと^です^か。

A : (1) 勉^{べん}強^{きやう}を^する^{ばい}合^あひ^にも、た^だぼ^んや^りと^何の^か考^かえ^もな^く学^が校^{こう}の^{せん}生^{せい}や^開倫^{かい}塾^{じゆく}の^{せん}生^{せい}の^{じゆ}業^{ぎやう}を^きき、た^だぼ^んや^りと^何の^か考^かえ^もな^く本^{ほん}を^あけ^て自^じ分^{ぶん}で^勉強^{きやう}を^する^のと、は^てっきりと^した^やり^方を^みに^つけ^てテ^キパ^キ勉^{べん}強^{きやう}する^のと^では、テ^スト^の結^{けつ}果^かに1対^い10以^い上^{じやう}の^さが^で出^でま^す。

(2) 開^{かい}倫^{りん}塾^{じゆく}で30年^{ねん}以^い上^{じやう}塾^{じゆく}生^{せい}の^{みな}さま^とい^っしよ^に勉^{べん}強^{きやう}を^して^きま^した^が、入^い塾^{じゆく}前^{まえ}に^勉強^{きやう}の^{しかた}を^きか^つて^いら^ない^人が^あま^りに^も多^おい^いので、^{こう}果^かの^あが^る勉^{べん}強^{きやう}の^{しかた}を「学^{がく}習^{じゆく}の3段^{だん}階^{かい}理^り論^{ろん}」と^して^わた^しが^まと^めま^した。毎^{まい}年^{ねん}少^{せう}し^ずつ^あ気^きが^つい^たこ^とを^つけ^かえ、^{また}、不^ふ要^{よう}な^とこ^ろは^とり^のぞ^いで30年^{ねん}経^{けい}ち^まし^た。こ^の「教^{きやう}え^て先^{せん}生^{せい}」の^しり^いず^で、そ^れを^{まい}日^{にち}少^{せう}し^ずつ^お伝^{でん}え^しま^すね。

(3) こ^のし^りい^ずの^{ぶん}章^{しょう}は、開^{かい}倫^{りん}塾^{じゆく}の^{せん}生^{せい}に^よく^いた^だい^して^後に、自^じ分^{ぶん}で^何回^{かい}か^よみ^かえ^し、^{必ず}保^ほ護^ご者^{しや}の^{みな}さま^にお^ただ^いし^て保^ほ護^ご者^{しや}の^{みな}さま^にも^いた^だい^して^下さい。み^んな^でよ^くよ^み、少^{せう}し^ずつ^{でも}よ^いで^すから、開^{かい}倫^{りん}塾^{じゆく}で^勉強^{きやう}し^てい^る間^{かん}に、自^じ分^{ぶん}な^りの^勉強^{きやう}の^{しかた}を^みに^つけ^て下^さい^ね。こ^れか^ら私^わた^しが^ご説^{せつ}明^{めい}する^勉強^{きやう}の^{しかた}は、上^{じやう}級^{きゆう}の^がく^校に行^いっ^ても、^{また}、社^{しゃ}会^{かい}に^いで^はた^らく^よう^にな^って^も、^もっ^とい^えば、死^しぬ^まえ^の日^{にち}ま^で役^{やく}に^たつ^もの^です。少^{せう}し^ずつ^身に^つけ、^実際^{さい}に^やっ^てみ^て下^さい^ね。

(4) た^だし、1つ^{だけ}お^{ねが}い^があ^りま^す。や^って^みれ^ばわ^かり^ます^が、私^わた^しが^これ^から^お伝^ええ^る方^{ほう}法^{ほう}で^勉強^{きやう}す^れば、ど^んな^方でも^{必ず}学^{がく}習^{じゆく}の^こう^けが^でま^す。学^が校^{こう}の^あら^ゆる^テス^ト、例^{れい}え^ば定^{てい}期^きテ^スト^{でも}実^{じつ}力^{りき}テ^スト^{でも}大^お幅^{はば}に^とち^があ^がり^ます。8月^{げつ}下^げ旬^{じゆん}や9月^{げつ}の^もぎ^しけん^おお^はば^{へん}さ^ちじ^{やう}し^{やう}昇^{しょう}し^ます。ど^んな^に難^{なん}しい^がく^校に^も合^あ格^{かく}し^ます。就^{しゅう}職^{しやく}試^し験^{けん}や^国家^{こく}資^し格^{かく}の^しけん^も合^あ格^{かく}し^ます。た^だ、私^わた^しの^これ^から^お伝^ええ^る通^{つう}り^に勉^{べん}強^{きやう}す^{ると}、今^{いま}ま^でよ^りも^勉強^{きやう}「時^じ間^{かん}」を^ふや^すこ^とが^もと^めら^れる^人が^おお^しよ^うです。「長^{がく}時^{じゆん}学^{がく}習^{じゆく}」が、こ^の勉^{べん}強^{きやう}方^{ほう}法^{ほう}で^は求^{もと}め^られ^ます。

(5) そ^こで^役に^たつ^のが、「合^{がく}格^{かく}」と^いう^はて^{っきり}と^した「目^{もく}的^{てき}」意^い識^{しき}です。た^だ何^{なに}と^なく、あ^るい^はい^やい^や勉^{べん}強^{きやう}し^たの^では、今^{いま}ま^でよ^り長^{べん}い^{じかん}勉^{べん}強^{きやう}す^るの^は意^い味^みが^ない、つ^らい^と感^{かん}じ^るこ^とが^おお^しよ^うが、「合^{がく}格^{かく}」と^自分^{ぶん}で^きめ^た目^{もく}的^{てき}の^ため^{なら}、勉^{べん}強^{きやう}で^きる^時間^{かん}が^とれ^てこ^んな^にあ^りが^たい^こと^はな^いと^いう^よう^にな^りま^す。自^じ分^{ぶん}の^{もく}的^{てき}、希^き望^{ぼう}を^{じつ}現^{げん}す^るた^めで^すから、勉^{べん}強^{きやう}す^るこ^とが^おお^しよ^うで、お^おし^よう^にな^りま^す。

(6) こ^のよ^うに ~ は、こ^の夏^{せい}成^{せき}績^{せき}を^のぼ^す上^{じやう}で^すべ^て必^{ひつ}要^{よう}と^私は^わた^しは^考え^ます。そ^れで^は、今^{いま}日^{にち}は^ここ^まで。ま^た、明^あ日^{にち}お^はし^ます。

Q : エー。そ^れは^こま^り困^こり^ます。の「^{こう}果^かの^あが^る勉^{べん}強^{きやう}の^{しかた}」を^じゆ^くち^{やう}塾^{じゆく}長^{ちやう}は^まだ^話して^いま^せん。今^{いま}日^{にち}や^るこ^と、今^{いま}す^ぐや^れて一^{いっ}番^{ばん}効^{こう}果^かが^あが^るこ^とを1つ^{だけ}教^{きやう}え^て下^ささい。

A : (1) わ^かり^まし^た。そ^れで^は1つ^{だけ}お^はし^ます。開^{かい}倫^{りん}塾^{じゆく}の^かき^{こう}し^ゆう^{かい}で^いま^まで^に勉^{べん}強^{きやう}し^たと^ころ

を、夏期講習会のテキストを用いて、一語一語かみしめながらもう一回ゆっくりと読み直し、問題は問残らずノートにやり直して下さい。

- (2)そして、意味のよくわからない「ことば(語句)」があったら一語残らず国語辞典で意味を確かめ、その意味をノートにメモして下さい。メモをし終えたら、その意味をうんなるほどとよく「理解」し、「理解」し終えたら、その場で完全に覚えて下さいね。
- (3)辞書で調べても意味のわからない「ことば(語句)」があったら、その科目の「学校の教科書」や「学年別の参考書」、「用語集」を用いてよく調べてみましょうね。学校や開倫塾の授業中にとったノートを見直すことも大事です。
- (4)それでもわからなかったら、次の日、開倫塾で先生に質問して下さい。
- (5)問題はすべてノートに解き直す。解き直したら、授業中に用いたノートや解答集を使って自分で丸つけをして下さい。そして、よくできなかった問題を探し、なぜ間違えたのかを考えながらもう一度やり直してみましょう。
- (6)できれば、科目別に「間違いノート」をつくり、一度間違えた問題と正解を書き写しておく。(あとで、自分の間違えたところだけ集中的にやり直すためです。これだけで、偏差値を15～20アップさせた塾生がたくさんいますよ。)
- (7)ここまでやっても、なぜこのような答えになるかわからない問題があったら、次の日に開倫塾の先生に質問して下さいね。
- (8)おわかりですか。私がお示しする勉強は、その通りやれば誰でも必ず大幅に成績が向上します。ただし、時間が少し余計にかかります。その少し余計にかかる時間が苦痛(ストレス)になるか、楽しみになるかは、皆様が目的を持って勉強に臨んでいるかどうかで決まります。「合格」、「何のためにその学校に入学し、そこで何を学ぶのか」、「その学校を卒業して何をするのか」、「何のために生きるのか」など学ぶ目的をはっきりさせる、「自覚」を持って勉強することだけが長時間学習を支えてくれます。

Q：よくわかりました。最後に一言どうぞ。

A：(1)開倫塾の教室が空いているときは自習室としてしますので、家で勉強できない人は、先生方がいらしている間自習することを認めます。ただし、何をどのように勉強するか、勉強の内容と勉強の仕方は、開倫塾の先生の指示に従って下さい。まずは、その日までにやった開倫塾のテキストを、今お伝えした方法ですべてやり直して下さい。

- (2)夜10時半以降は、先生方の勤務時間ではありませんので、夜10時半になったら全員帰宅して下さい。開倫塾での10時半以降の学習は一切禁止ですので、それだけは必ず守って下さいね。ではがんばって下さい。今日はこれまで。また、明日お会いしましょうね。

以上

2011年7月22日

「音読、音読、音読」「書き取り、書き取り、書き取り」「計算、計算、計算」を
練習は不可能を可能にする

開倫塾
塾長 林 明夫

Q：開倫塾の夏期講習で今日勉強したことを、授業が終わってからもう一回やり直しました。次は何をしたらよいのですか。次に何をすれば、夏休みが終わるまでに成績が急上昇するのですか。

- A：(1) (林明夫：以下省略) よくがんばりましたね。素晴らしいことだと高く評価します。
- (2) 次に何をしたらよいか。その日に開倫塾の夏期講習で勉強して「うんなるほど」と十分に「理解」したことを、スミからスミまで一語残らず覚えることです。
- (3) そのために一番効果があるのが、すべての科目のテキストとノートを大きな声で読むこと、つまり「音読」です。スミからスミまで覚え切るまで何回も、何回も、場合によっては、何十回も、何百回も大きな声で「音読」することです。
- (4) 何も見ないでスラスラ言えるようになるまで「音読」すること、この練習を「音読練習」と私は名付けました。
- (5) 第二番目に効果的なのは、書けるようになるまで何回も、何十回も書くこと、つまり「書き取り練習」をすることです。開倫塾のテキストに出ていることは、手が痛くなるくらい書き取り練習をすること。正確に書けなければテストでは点数にならないし、正確に書けるまで練習をしておく、一生忘れないからです。
- (6) 第三番目に効果的なのは、一度夏期講習でやってなぜそのような答えになるかを理解した計算や問題は、問題を見た瞬間に条件反射でパッパッと答えが出るようになるまで、何回も、何十回も解く練習をすることです。これを「計算・問題練習」と私は名付けました。
- (7) この3つの練習、つまり、「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」を「定着のための三大練習」と私は名付けました。
- (8) 慶應義塾大学の元塾長の小泉信三先生は、「練習は不可能を可能にする」とおっしゃいました。「定着のための三大練習」は、すべての学年において塾生の皆様の学力をこの夏休みに飛躍的に向上させます。
- (9) 自習室では、「今日までにやった内容をもう一度やり直すこと」が大事です。その後は、「定着のための三大練習」をモクモクとやり通して下さい。やった人は、必ず成績が大幅に上昇します。

Q：最後に一言どうぞ。

- A：(1) 勉強はやるか、やらないかです。
- (2) 私が開倫塾の皆様にお示ししている勉強の仕方は、どんな人がやっても例外なく、必ずものすごく力がつきます。力はつきますが、時間だけはかかります。
- (3) そこで必要になるのが、勉強する目的をはっきりさせることです。「合格」と毎日、何回も紙に書いて「自分は に合格するために今勉強している。とても尊いことをしているのだ」と、自分に言い聞かせて下さいね。
- 今日はこの辺で。

以上

2011年7月25日(月)

学力を高めるには、ことばの数(語彙数)を増やすことが大事

開倫塾 塾長 林 明夫

Q: この夏休み中に、学力を飛躍的に高めるにはどうしたらよいか。

- (1) 「開倫塾の夏期講習会で勉強したところまで、夏期講習会テキストを必ずやり直すこと」。
- (2) 次に「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」の「定着のための三大練習」を、開倫塾の夏期講習会で勉強してよく「理解」したところまで、何回も、何十回も、科目によっては何百回も繰り返し行い、スミからスミまで覚え切ること。
- (3) この2つのことは、2011年夏塾 長特別講義シリーズの第1回と2回のお話でよくわかりました。この他に、学力を高める方法がありますか。

A: (林明夫: 以下省略)

- (1) 授業でやったところまでテキストを全部やり直し、よく理解したところは「定着のための三大練習」をし、スミからスミまで覚え切る。自分で決めた「合格」という目的を達成するために、時間のかかるこのような作業をコツコツし続ける皆様は立派です。私の誇り、開倫塾の誇りでもあります。時間はかかるでしょうが、「合格」と「高い志」を持ち続けて、この夏休みは一日も休むことなく毎日の勉強を続けて下さいね。
- (2) 「この2つのに他に学力を上げる勉強の方法はあるか」という御質問ですね。この2つのに、塾生の皆様の学力を上げる勉強の仕方があります。実は、山ほどあります。この2011年夏塾 長特別講義シリーズでこれからも少しずつお伝えしますので、少しずつでよいですから自分でやってみて、確実に身につけ、開倫塾の塾生である間に自分のものにして下さいね。

(3) 少しでも考えて頂きたいこと

その前に、少しでも考えてもらいたいことがあります。私が開倫塾を32年前に創業したのはなぜかといえば、実は塾生の皆さんの「自己学習能力の育成」のためです。つまり、開倫塾の塾生である間に、今通っている学校だけでなく、進学を希望する学校や、社会に出ても一生涯役に立つ、自分に合った勉強方法を少しずつ身につけてもらいたい。自分に合った勉強の仕方を身につけて学力を向上させ、人生の選択肢を少しずつ増やしてもらいたい。そう考えたからです。

人生の大切な岐路、つまり分かれ道を迎えたときに、選択肢は少ないよりは、少しでも多いほうがよいのではないかと。結局は一つしか選べないけれども、「人生の成功」とは選択肢が一つだけではなくいくつかある人生なのではないかと私は考えます。

はっきり言ってしまえば、高校や大学に進学する場合に、偏差値があまり高くないと合格できる学校は限られます。偏差値が少しでも上がれば、合格できる学校は多くなります。偏差値があまり高くないと、1~2つの学校にしか進学できません。けれども、自分の力で学力を身につけて、偏差値を少しずつでも上げればどうなるか。いくつかの学校の中から、自分の将来にとって最もふさわしい学校を選択し、進学を果たすことができる。そこで、自由自在に上級

学校での生活をする事ができる。私は、このような人生、多様な選択肢のある人生も素晴らしいのではないかと考えます。
何のための学力が、何のために、今、勉強しているのかも、ぜひ、この夏真剣に考えて下さいね。

(4)この夏、学力を向上させるよい方法はもう2つあります。

Q：何ですか、あと2つとは。早く教えてください。

A：あせらないで、私の話をゆっくり聞いて下さいね。

(1)その1つは、よくわからない「ことば」や「語句」が出てきたら、すべて「辞書」を引いて調べることです。できるだけ、その場でことばの意味を覚えることです。

(2)「辞書」を引いて調べたことは、すべてノートや教科書などにメモをして、メモした「ことば」の意味はその場で何回も読み直して覚えてしまうことです。

(3)一番よいのは、辞書を引いて調べた「ことば」の意味を科目別のノートにすべて書き写し、まずは、どんなことを考えて、うんなるほど、こういうことかと十分に「理解」することです。辞書に書いてある「ことば」の意味の中にわからない「ことば」があったら、また辞書で調べ、ノートに書き写しておくことは当然です。(これは多くの人がやっていますよ)

(4)十分に「ことば」の意味がわかったら、つまり「理解」できたら、その場でその「ことば」とその「意味」を覚えてしまうこと。

「ことば」の意味は「ことば」だ」とスラスラ言えるまでにすることが大事です。これには、正確にスラスラ言えるようになるまで大きな声で何回も読む「音読練習」が役に立ちます。

次に、スラスラ正確に言えるようになった「ことば」とその「意味」を、「楷書」つまり学校の教科書の書体で正確に書けるようにすることが大事です。これには、楷書で正確に書けるようになるまで何回も「書き取り練習」をすることが役に立ちます。

「定着のための三大練習」の中の2つの練習、つまり、「音読練習」と「書き取り練習」を繰り返し、自分の力で辞書を引いて調べた「ことば」と「ことばの意味」を正確に身につけましょう。

(5)科目別のノートに書き写した「ことば」とその「意味」は、毎日、繰り返しノートの初めのページから読み直し、一度辞書を引いて調べ、その場で覚えた「ことば」とその「意味」は絶対に忘れないように心がけましょう。(これも多くの人がやっていますよ)

(6)学校の教科書や開倫塾のテキスト、いろいろな本や新聞を読んでいて、そこに書いてあることがよくわからないのはなぜか。学校や開倫塾の先生はじめいろいろな人のお話を聞いても、言っている意味がよくわからない理由は何か。その理由をよく考えてみましょう。頭がよい、あまりよくないということは全く関係がありません。その理由は、意味をよく理解している「ことばの数」があまり多くないからではないかと私は考えます。

(7)自分でよく理解している「ことばの数」が多い人は、教科書や参考書、資料集、問題集を読んでも、そこに何が書いてあるかがよくわかることが多い。初めて出会う「ことばの数」が少ない、つまり、わからない「ことばの数」が少ないから、何が書いてあるかが大体わかるのだと思います。

(8)ところが、自分でよく理解している「ことばの数」があまり多くない人は、教科書などを読んでも、そこに何が書いてあるかがあまりよくわからないことが多い。初めて出会う「ことばの数」が多いため、何が書いてあるのかよくわからないのだと思います。

(9)意味のよくわからない「ことば」に出会ったら、辞書を引いたほうがよいと、小学生、中学生、高校生も、最近では大学生も、更には社会人までもが言われるのはなぜか。意味のよくわかっている「ことばの数」が多ければ多いほど、教科書はじめいろいろなものを読んだり、人の話を聞いたるときにその意味がよくわかる、「理解」できるからだと私は考えます。自分が誰かにことばで伝えたいことがあった場合に、自分に身につけている「ことばの数」が多ければ多いほど、いろいろな表し方で言ったり、書いたりすることができます。「ことばの数」の多さは、「読む」「聞く」「話す」「書く」能力を強めます。

(10)自分でよくわかっている、つまり「理解」し、身につけていることばの総体をちょっと難しい表現かもしれませんが「語彙(ごい)」と言います。英語では vocabulary(ボキャブラリー)と言います。自分に身につけている「ことばの数」、「語彙(ごい)」、「ボキャブラリー」が多ければ多いほど、書いてあること、話されていることがよく「理解」でき、また、自分が伝えたいことを「話すこと」「書くこと」ができると私は考えます。

(11)また、「ことば」、「語彙」、「ボキャブラリー」の数を増やすことは、学力向上、成績向上、偏差値向上に直結します。入学試験だけでなく、採用試験、検定試験、国家試験などありとあらゆる試験に合格するときには、専門の先生方からの授業を受けたり、その試験に合格するための「教科書」や「参考書」、「用語集」、「問題集」などで勉強したりしますが、そこに書かれていることをよく「理解」するためには、自分がよく「理解」し、身につけている「ことば」、「語彙」、「ボキャブラリー」の数が多ければ多いほど助かります。勉強がどんどんはかどります。

(12)このように、自分がよく「理解」し、身につけている「ことば」、「語彙」、「ボキャブラリー」の数が多ければ多いほど、学校での成績も上がり、偏差値も上がり、入学試験や就職試験はじめ世の中のありとあらゆる試験にも合格しやすくなると、私は「断言」できます。

(13)そこで、教科書などを読んでいて、少しでもよくわからない「ことば」に出会ったら、おっくうがらなくて必ず辞書を引き、その意味をその場で覚え、また、ノートにもきちんとメモをしておくこと。各科目のノートはいつも初めの1ページから勉強し直して、一度辞書で調べた「ことば」と「ことばの意味」は絶対に忘れないようにすることです。

(14)よくわからない「ことば」が出てきたら「気持ちが悪い」と思い、どんどん辞書で意味を調べること、調べた意味もその場で必ず覚えることを習慣とすることが、学力向上のコツ、秘訣と言えます。

Q:教科書を勉強していて、辞書で調べてもよくわからないことはどうしたらよいですか。

A:(1)とてもよい質問ですね。(It is a very good question.)

そのときには、各科目の学年別の参考書を辞書代わりに用いることをお勧めします。中学生なら、学年別の「ハイトップ」が「チャート式」の参考書を辞書代わりに用いること。

(2) また、各科目の分野別の「用語集」という参考書と資料集を合わせた本も非常に有用です。書店や図書館で探してどんどん活用して下さい。(用語集を活用している人もたくさんいますよ)

(3) 小学生は中学生の、中学生は高校生の、高校生は大学生の教科書や参考書、用語集を用いると、より詳しく、わかりやすい、丁寧な説明や解説が書いてあります。勉強に遠慮は要りません。誰に遠慮することなく、上級学校の本もどんどん活用すべきです。

Q : 辞書も少し難しめのものを使ってよいのですか。

A : (1) 言い忘れて申し訳ありませんでしたが、私の答えは「もちろん」です。小学生でも岩波書店の「広辞苑」を毎日のように用いる人は山ほどいます。

(2) 私は、高校生のときに研究社の「英和大辞典」という大型の辞書を買ってもらい、1つ1つの英語の単語にこんなにも多くの、また、深い意味が含まれているのを知り、本当に驚いたことがあります。普段は三省堂の「クラウン英和辞典」と研究社の「英和中辞典」をボロボロになるまで使っていたのですが、研究社の「英和大辞典」のお陰で英語が大好きになりました。

(3) 古文は小西甚一先生の「基本古語辞典」(大修館)を、これもボロボロになって壊れてしまうくらいまで使っていました。古文が好きになったのは、小西先生のこの辞典のお陰です。最近、小西先生の「古文の読解」と同じように、この辞書も復刊されましたので、ぜひ活用して下さいね。

Q : エッ、中学生や高校生になっても辞書は引いたほうがよいのですか。

A : (1) なぜそのような質問をするのか、私にはよく理解できません。

(2) 皆さんの中には、辞書の使い方の勉強は小学生で行うので、辞書は小学生が引くもので、中学生や高校生になったら辞書を引いてことばの意味を調べることはしなくてよいと、勘違いをなさっている方もいるかもしれませんね。

(3) なぜ小学校では辞書の使い方を学ぶのか。それは、小学生のうちに国語辞典と漢和辞典の使い方を身につけ、中学校以降の勉強に役立つためだと私は考えます。

小学校よりは中学校、中学校よりは高校、高校よりは大学、大学よりは実社会のほうがはるかに難しいことばが用いられることが多い。これはまぎれもない事実です。

(4) 小学生時代よりは中学生時代、中学生時代よりは高校生時代、高校生時代よりは大学生時代のほうが、また、学生時代よりは社会に出てからのほうが勉強内容や活動の内容がどんどん難しくなってきますので、小学校で身につけた辞書の使い方を最大活用して、上の学校で学ぶ人ほど辞書を用いてことばの意味を調べる回数が増えるものと私は考えます。

(5) それなのに、辞書を用いるのは小学生だけで、中学生、高校生、大学生になったらわからない「ことば」に出会っても辞書を引いてその意味を調べようとしないのでは、全く勉強にならないと私は考えます。中学生、高校生、大学生がわからない「ことば」を目にしてもそのまま放っておいては、勉強が進まない。成績や偏差値が上がることもないと私は考えます。

(6) ことばの意味をよく「理解」しないまま、つまり、「理解」が不十分なままテスト対策をしても、よい点数は取れないと私は考えます。

(7) 中学生は小学生以上に、高校生は小学生・中学生以上に、大学生は小学生・中学生・高校生以上に、もっと言えば、社会に出たら学校で勉強したとき以上に、わからない「ことば」に出会ったら熱心に辞書を引き、そのことばの意味をコツコツと身につけ、「ことば」、「語彙」、「ボキャブラリー」の数を毎日少しずつでも増やし、自分の力で豊かな人生を手に入れて下さいね。

(8) 私は学校を出てかなりたちましたが、勉強が不足していますので、毎日辞書のお世話になります。毎日、何回も何十回もいろいろな辞書を引いて調べています。辞書のお陰で、日本語で書いてあるものはかなり自由に読めるようになりました。英語も、簡単なものは読めたり聞けたりできるようになりました。(英語を話したり、書いたりすることは、本格的に訓練をしていないのでまだまだ不十分です。これから少しずつ勉強しようと思います。)

Q : 最後に一言どうぞ。

A : (1) この夏、学力を一気に上げるのは、あまり難しいことではありません。次のことを徹底的に実行に移しましょう。

開倫塾の夏期講習会、お盆特訓、8月分授業、模試直前授業、補習授業などで勉強したところは必ずもう一度やり直すこと。

やり直して、そうか、これはこのようなことなのかと「うなるほど」とよくわかった、「理解」したところは、「音読練習」と「書き取り練習」、「計算・問題練習」をして、スミからスミまで一語残らず、また、計算や問題は一問残らず覚え切ること。

学校の教科書や開倫塾のテキスト、さまざまな参考書、教材、問題集などを読んでいて、よくわからない「ことば」に出会ったら、「気持ちが悪い」と考えて、辞書を引いてその意味を調べ、調べたことはその場で覚える。調べた「ことば」はその意味をノートに書き写し、その意味を覚える。そのノートを何回も何回も読み返し、一度覚えた「ことば」とその「ことばの意味」を忘れないようにする。「ことば」、「語彙」、「ボキャブラリー」の数を少しでも多くする努力をすること。

(2) 学校の教科書以外の本や新聞を、この夏できるだけたくさん読むことの大事さは、明日お話しします。ただ、今日のうちに塾生の皆様にお伝えしておきたいことが、最後に一つあります。それは、「本」や「新聞」を読むときも、意味のよくわからない「ことば」に出会ったら、「気持ちが悪い」と考えて、辞書で必ずその「ことば」の意味を確かめることです。確かめたら、その場でその意味を覚えてしまうこと。そして、もしできれば、調べた「ことば」とその「意味」を「ノート」や「カード」に書き写しておくこと。書き写した「ノート」や「カード」を繰り返し読み返し、「ことば」とその「意味」を忘れないようにすることです。

(3) 今日は、学力向上の前提となる「ことばの数」を増やすことと、そのために辞書を引き、その意味を覚えることの大切さをお話いたしました。

今日からでも、やってみて下さいね。必ず成績がぐんぐん上がりますよ。

以上

2011年7月26日(火)

「読書による思慮深さ」と「新聞を読んで、自分で考える力、
批判的思考(critical thinking クリティカル シンキング)能力」を身につけよう

この夏は読書を毎日しよう、新聞をスミからスミまで毎日読もう

開倫塾
塾長 林 明夫

Q：わからない「ことば」に出会ったら「気持ちが悪い」と思い、「辞書」を引いてその「ことば」の意味を調べ、その場で覚える。辞書で調べたことはノートにメモをしておき、そのノートは1ページ目から毎日読み直し、一度辞書で調べた「ことば」と「ことば」の意味を忘れないようにする。そして、「ことば」、「語彙」、「vocabulary ボキャブラリー」の数を増やす。前回(第3回)のお話は、面白かったです。小学生よりは中学生、中学生よりは高校生、高校生よりは大学生、大学生よりは社会に出たからのほうが読む本や勉強する内容は格段に難しくなるので、辞書は数多く引き、よくわからない「ことば」の意味を確かめることが大事なのですね。

A：(林明夫：以下省略)

(1)その通りです。前回のお話をよく「理解」して頂いて、とてもうれしいです。是非、実際にやってみて下さいね。学力は、よくわかっている「ことば」の数と直結しますから、辞書を片時も手放すことなく、自分の身近に置いて使いこなして下さいね。

(2)大学生や大人になったら電子辞書もよいですが、小学生・中学生・高校生のうちは紙の辞書に慣れ親しんで、ポロポロになるまで使い込んで下さいね。

(3)私がお勧めするのは、岩波書店の「広辞苑」という辞書です。かなり分厚いので、本棚などに入れないで、はじめから机の上に(右端にでも)置いておき、わからない「ことば」に出会ったらパッと開けるようにしておくのが「広辞苑」を使いこなすコツであると、ある方から教えて頂いたことがあります。「広辞苑」に限らず、辞書は机の上に置いておき、いつでもパッと開けるようにしておく。これは、勉強の極意かもしれません。皆様も、是非、辞書の置き場所をどうするかも含め、辞書の活用の仕方を工夫して下さいね。

Q：辞書を活用する他に、「効果の上がる勉強の方法」はありますか。

A：「効果の上がる勉強の仕方」というよりは、学力を身につける前提となる条件として、読書による思慮深さを身につけることがあります。

Q：読書による思慮深さとは何ですか。

A：(1)「広辞苑」で調べると、次のような意味が示されています。

「読書」とは、書物つまり本を読むこと。

「思慮」とは、注意深く考え思ふこと。思いめぐらした考え。おもんばかり。

「思慮深さ」とは、物事を注意深く考え、慎重に判断すること。

(2) 読書で得られるものはたくさんありますが、人生にとって最も大切な「思慮深さ」が得られるのも読書です。

(3) いろいろな本をゆっくりとかみしめながら、また、繰り返し読んでいくと、様々なことを知ることができます。様々な感動や楽しみを得ることができます。スリルを味わうこともできます。本格的な読書をするようになればなるほど、深くものごとを考え、自分自身を見つめ直すようになります。

私は、宇都宮市教育委員会から「大人の道徳教育」の講師を依頼され、6月22日と7月6日の2日間、「論語」について2時間ずつお話をさせて頂きました。久しぶりに、「論語」の499章全部を何冊かの本をたよりに2か月近くかけて読んでみましたが、「論語」の一つ一つの文章が本当に心に染みてきました。江戸時代には、多くの武士が藩校や私塾で「論語」を学んだようです。多くの庶民が通った寺子屋でも、「論語」を教えるところがあったようです。中国やアメリカ、世界の動きを見ながら、この日本をどうかしなければとの熱い思いで成し遂げられた明治維新や維新以降の近代日本を形づくった人々の精神には、子どもの頃から慣れ親しんだ「論語」の教えが大きく影響していたことが、「論語」の499章を読み直してよくわかりました。

Q：思慮深さを身につけるためには、どのように読書をしたらよいのですか。

A：(1) 大事なものは、どのような本を読むか、つまり本の選び方です。目の前に置いてある本や雑誌を読めばよいというのは、目の前にあるものを食べるのと同じです。あまり変なものや腐ったものを食べると、お腹が痛くなったり病気になったりします。あまり変な本を読むと、皆さんの将来のためにならない、害毒を及ぼすものもあります。自分の身体の中に入る大切な食べ物と同じように、何を読むかも皆様の将来を考えて慎重に選ぶべきです。

(2) 私は、まずは、学校の教科書で紹介されている本や、学校の図書室、市や町の図書館の本をお読みになることをお勧めします。本を選ぶことに慣れてきたら、近所の本屋さんに出かけたり、時には大きな街の大きな本屋さんに出かけたりして、よく自分の力で本をよく選び、お小遣いの範囲で購入することをお勧めします。

(3) では、どのように本を読んだらよいか。本は5～6回読むとよいと私は考えます。読んで思慮深さが身につくような本は、ゆっくりとかみしめながら何回も何回も読むではじめて、作者(著者)が何を言いたいのがジワッとわかってくるものです。1回目よりは2回目、2回目よりは3回目と、何回も何回もゆっくりと読むことをお勧めします。

(4) 1回読んですぐに2回目に取りかかってもよいですが、できれば、しばらく間をおいて読む。私は、夏目漱石が大好きで「坊ちゃん」や「それから」などは3～5年おきに、また、大好きな志賀直哉の「暗夜行路」などは10年に1回ぐらいずつ、思い出したように読んでいますが、回数を重ねるごとに「ああ、これはこういうことだったのか」と、作者が読者である私に伝えたいことが深く

「理解」できると感じます。ただ、大切な本は、1 回目は小学校や中学校、高校で勉強しているうちにゆっくりと読むことをお勧めします。

(5) 「書き抜き読書ノート」というノートを一冊つくっておき、読んでいて気に入った文章に出会ったら、たとえ一行でも書き抜いておく。そして、書き抜いた文章を、何回も何回も読み直すことをお勧めします。もしかしたら、繰り返し読み直した「書き抜き読書ノート」の一節が、皆様の人生の節目、節目で大きな支えになるかもしれません。皆様の「人格の基礎」になるかもしれませんよ。大切にしてくださいね。

(6) 夏休みにはこの本を読むと決め、毎日少しずつでも「読書」に励んで下さい。必ず成績がアップしますよ。

Q：新聞も読んだほうがよいのですか。

A：(1) その通りです。8月1日から8月31日までの1か月間、家で購読している新聞を一面からゆっくりとスミからスミまで読んでみましょう。地域や日本、世界で何が起きているのか、世の中の動きがよくわかりますよ。新聞の記事は、5W1H、つまり When(いつ)、Where(どこで)、What(何が)、Who(誰によって)、Why(なぜ)、How(どのように)の形で大体書かれていますから、そのことも時々確かめてみましょう。

(2) 新聞を読むときは、学校の社会の授業で使っている、または使ったことのある「地図帳」を横に置き、ちょっと不確かな地名が出てきたら、どこにあるか確かめてみましょうね。地図で確かめた地名は、日本国内なら都道府県名、外国なら国名といっしょにノートに書いておく。そして、時々「地名ノート」を読み返してみると、とても勉強になります。日本や世界への関心が一気に広がります。

(3) 新聞を読んで身につくのは、「自分で考える力」「批判的思考能力」です。新聞の記事を書く「新聞記者」は、「社会の Watch Dog(ワッチ・ドッグ、番犬)」と欧米では言われています。社会に何か問題が発生したら、5W1H の方法で徹底的にその出来事を調べ上げ、なぜそんなことが起きたのか、これからどうしなければならないのかを、番犬が不審者に向かいワンワンほえて事件を防ぐように、社会に警告を鳴らすための記事を書く。書いた人の責任を明らかにするために、記者の名前を添えて記事を書き上げます。

(4) それを編集長が新聞として世に出すことが適切かどうかを判断して、記者の署名入りで記事を出します。このような新聞の作り方を「調査報道」と言い、日本でも盛んに行われるようになりました。

(5) 記者は、このような「使命」に基づいて、つまり、文字通り自分の「命を使って」まで、世の中で何が起きているのかを人々に伝えようとしますから、厳しい表現が多くなります。このような形で伝えられる新聞記事を読んで、どのような考えを持つかは読者の自由です。こんなことが行われたのだから、この世の中はもう終わりだと思える人もいれば、このようなことがないようにするにはどうしたらよいか、自分のできることは何かを考える人もいます。

(6) 新聞記事の内容は、新聞社が「このことだけは読者に伝えなければ」と考え、記者が命を懸けて記事を書き、編集者が選び抜いたものばかりです。事実に基づいた内容がほとんどです。ただし、記者も編集者も人間ですから、事実の認識に誤りがあったり、その分析に誤りがあったりすることもあります。読者である我々は、いくつかの新聞を読み比べて、本当はどうなのかを自分の頭で考えることが求められます。

(7) 新聞に書いてあることを参考にして、自分の頭で考える。これが「新聞を用いて自分の力で考える」ことだと私は思います。

(8) 自分の目の前に起こっている様々な出来事が一体どのようなことだろうかと、批判的に考える能力を身につけることも生きていく上で大切です。例えば、放射能についていろいろなことが言われていますが、一体何が本当なのか、自分の健康や生活を守るにはどうしたらよいのか、自分の頭で考えることが大事です。

(9) 小学生は20分、中学生は40分、高校生は60分以上新聞を毎日読んで、「自分で考える力」、「批判的思考能力」を身につけて下さいね。

(10) 家で新聞を購読していない方は、親戚や知り合いの家で読ませてもらって下さい。週に何回か図書館に行き、まとめて読むという方法もあります。お小遣いがたまったら、コンビニで新聞を買うこともできますよ。

Q：最後に一言どうぞ。

A：(1) 本や新聞を毎日のように読むと、難しい文章や難しい内容を素早く読む能力が飛躍的に高まります。本や新聞を毎日しっかり読む人は学力が高いです。

(2) この夏学力を飛躍的に高めれば、2011年夏塾長特別講義の第1回から第3回までの内容に、本と新聞を夏休み中毎日熱心に読み続けることも入れて下さいね。

(3) 気に入った記事があったら、発行日の翌日に、家の人の許可を得て新聞記事をハサミできれいに切り抜き、日付けを書き添えて、ノリでノートに貼り付けておくことをお勧めします。「タイトル」をマジックで付れたり、その記事を読んだ後の感想を何行か書いておくことも、とてもよい勉強になります。

2011年7月27日(水)

成績を上げるために「ノート」を活用しよう
効果の上がる「ノート」の作り方

開倫塾
塾長 林 明夫

Q：ノートを活用すると成績は上がるのですか。

A：(林明夫：以下省略)「ノート」を活用すると成績はどんどん上がると私は考えます。なぜなら、「ノート」を活用して成績をどんどん上げる人がいるのは事実だからです。

Q：どのように「ノート」を活用したらよいのですか。

A：(1)授業中は、先生のお話になったことを「どんどん」ノートにメモし続ける。一言残らずノートにメモをするつもりで、先生の話真剣に聞くことです。

(2)授業中に先生が黒板に書いたことも、一文字残らずノートにメモをし続ける。教室の後方に座っていて、前の人が妨げになって黒板の文字が見えないときは、立ち上がって黒板に何が書いてあるかを見ることです。

(3)授業中に先生のお話をどんどんノートにメモし続けることや黒板に書いたことをノートにメモし続けるのは、大切な能力です。がんばって、人の話をノートにメモし、黒板に書いてあることをノートにメモし続ける能力を、一日も早く身につけましょうね。

「ノート」を取ることができるのは1つの能力

Q：えー、ノートを取るのには能力なのですか。

A：その通りです。私は、ロシア語の授業を聞いて先生の話のノートをメモすることも、黒板に書いてあることをノートにメモすることもできません。それは、「ロシア語でノートを取る能力」がないからです。しかし、日本語での授業ならノートは取れます。それは、「日本語でノートを取る能力」があるからです。

Q：なるほど、ノートを取るのには能力なのですね。

A：(1)はい。ですから、英語ができるかどうかの1つの目安は、「英語での授業でノートが取れる」となります。

(2)まずは、「日本語の授業でノートを取る能力」を、次に「英語の授業でノートを取る能力」を一日も早く身につけて下さいね。将来、皆さんが英語以外の外国語を学ぶ場合には、その言語で授業を受けたときにノートが取れるかどうかを努力目標の1つにして下さいね。

Q：なぜ授業中に先生の話や先生が黒板に書いたことをノートにどんどんメモすることが必要なのですか。

A：とてもよい質問ですね。(It is a very good question!!)

(1)授業で大事なものは、先生の話の聞いたり、授業中に様々な活動に参加したりして「ああ、このことはこういうことなのか」と「よくわかる」、「腑に落ちる」、「理解」することです。授業で一番大事なのは、「うんなるほど」と「理解」することだと私は考えます。

(2)しかし、せっかく授業中に「うなるほど」と「理解」することができて、時間が経つにつれてどんどん忘れてしまうことが多いのも事実です。理解できたことが10あったとしても、授業後に何時間か、何日か、何か月か経つたと、そのうちの何割かは忘れてしまうものです。

(3)では、どうしたらよいか。授業中の先生のお話や板書事項の理解に努めながら、できるだけそのままノートにメモをしておき、そのノートを繰り返し勉強し直し、自分のものとして身につける、定着させることが大事と私は考えます。

(4)そのためには、あとで繰り返し勉強がしやすいように、授業を受けながら、また、授業が終了したあとに、「ノートを整理すること」が大事です。

(5)対応する「教科書」や「教材」、「問題集」などの「ページ」や「項目名」を入れる、大事なことはラインマーカーで印をつける・四方を線で囲むなど、さまざまな工夫をして下さいね。見やすくする、読みやすくすると、あとで勉強するときにとっても役に立ちます。

(6)授業中のことですので、ノートに取る「文字」や「数字」の「美しさ」、「きれいさ」はあまり気にしないようにしましょう。「自分があとで読んでわかればよい」というくらいに気楽に考えて、とにかくどんどん「ノート」を取りましょう。

Q：では、どのようにして「ノート」を繰り返し勉強し直し、授業中に「うなるほど」と「理解」したことを身につける、「定着」させたらよいのですか。

A：(1)この「塾長特別講義シリーズ」第1回目でお話した「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」の「定着のための三大練習」を、「ノート」についてもそっくりやってみて下さい。

(2)一度「理解」した学校の教科書や開倫塾のテキスト、教材、問題集を「定着のための三大練習」で繰り返し勉強し直し、スミからスミまですべて覚えてしまうように、「ノート」もスミからスミまで覚えて下さいね。必ず成績が上がりますよ。

Q：最後に一言どうぞ。

A：(1)学校や開倫塾の授業中に熱心に「ノート」を取ること、取った「ノート」を「定着のための三大練習」で、スミからスミまですべて覚え切ることが、将来皆様が大学や大学院に進学をしたり、社会に出て仕事やさまざまな活動をしたりするとき、ものすごく役に立ちます。

(2)上の学校に行けば行くほど、勉強の内容は複雑になりますから、その場で「理解」はできて、すべては覚えられません。そのため、ノートを取ることが大切となります。

(3)社会に出ると「教科書」や「参考書」などはないことがほとんどなので、新しいことを教わったらすべて「ノート」にメモをし、あとで繰り返し勉強し直してどんどん覚え続けなければ、仕事が覚えられないことも多いです。

(4)小学校や中学校、高校で学んでいる間にノートを取る練習をして、大学や大学院に進学してから、また、社会に出てから大いに役立てて下さいね。

では、今日はこの辺で。また、明日。

以上

2011年7月28日(木)

授業中は先生の目を見て真剣に授業に臨もう
効果の上がる授業の受け方とは

開倫塾
塾長 林 明夫

Q：前回(第5回)の「ノート」についてのお話は面白かったですね。

(1) 授業中に先生が話した内容や黒板に書いたことは一語残らずすべてノートにメモする。そのノートは、あとで勉強しやすいように、授業中または授業後に整理する。

(2) そして、内容を十分「理解」した授業のノートは、あとでスミからスミまで一語残らず覚え切る。

(3) そのときに役に立つのが、「音読」「書き取り」「計算・問題」の「定着のための三大練習」。

(4) 「ノートを取るの的能力」「ノートを取る能力は、上の学校つまり大学や大学院で役に立つ、社会に出てからも役に立つ」。
ここまではあまり考えたことがありませんでした。

A：(林明夫：以下省略)

(1) 前回の、ノートについてのお話の内容をよく覚えて下さってありがとうございます。

(2) そうそう、一つお伝えすることを忘れました。それは、「ノートの大きさ」についてです。ノートにはいろいろな形のものがあります。B版でもよいのですが、私は、開倫塾の塾生の皆様は高校を卒業してから大学や大学院に進学する方が大半だと思いますので、大きめのA版をお使いになることをお勧めします。A版のノートは大きいので、1ページに自由自在にいろいろなことが沢山書けます。

(3) ノート整理の仕方が上手になれば、こんなに使い易い、また、あとで勉強し易いノートがあるのかとびっくりするくらいなのがA版のノートです。

(4) 授業が終わったあとに、その内容をさらに勉強して、辞書や用語集、参考書で「ことば」の意味を調べたときに、A版ですと広いので書くスペースが沢山あり、十分に書き写すことができますよ。

(5) 大きな文具店に行けば売っていますので、探してみてください。「アスクル」でも届けてくれます。

Q：A版のノートですか。わかりました。ところで、授業はどのように受けたらよいのですか。授業の受け方を教えてください。

A : (1)姿勢を正し、手を机の上に置き、先生の目を見て、先生のお話を一言も聞き逃さない、聞き漏らさないように真剣に授業を受けることです。また、先生の指示で、実験や観察、グループワークなどのさまざまな授業中の活動に積極的に参加することに尽きます。

(2)そのような態度で「授業」に臨むと、「ああ、このことはこういうことなのか」ということが「よくわかる」「腑に落ちる」、つまり「理解」できます。ものごとの本質を「理解」することに役立つのが「授業」です。

(3)ですから、せっかく同じ授業を受けるのなら、席は先生に最も近い一番前の席が一番よい席、特等席となります。

(4)一番前の席で授業を受けると、自分のすぐ前で先生がお話をして下さっていますから、先生の声はよく聞き取れるし、先生が黒板に書いている文字や図なども遮るものがないので、よく見え、すべてノートに書き写すことができます。先生の表情もよくわかりますので、何が大切なのがよくわかります。

(5)クラスの後ろのほうに着席すると、先生の声が聞き取れないこともあります。前のほうの人の身体に隠れて、黒板に書いてある内容がよく見えないこともあります。先生の表情が、遠くてよくわからないこともあります。

(6)一番前に着席したときと、後方に着席したときとでは、授業中の「理解」に大きな違いが生じます。

(7)どこに着席するかの大事さがよくわかっている有名予備校の大学受験生や、入学が難しいとされる東京大学法学部の大学生などは、成績のよいトップクラスの人ほど、一番前の席にいつも着席するために一番早くその教室に到着しています。

Q : えー、成績のよい人は、早く予備校や学校に行って一番前の席に着席するのですか。すごいですね。

A : 成績のよい人ほど真剣ですから、誰よりも早く教室に入り、誰よりも早く今までやったところまでの教科書や教材、ノートに目を通し、今の授業の範囲の教科書や教材を静かに読み、今日はどのようなことを学ぶのかを予習しています。

Q : 本当ですか。塾長はなぜそのようなことを知っているのですか。

A : (1)その理由は、この目で、そのような方を今まで数多く見てきたからです。高校を卒業し、私が大学受験をした年は「大学紛争」というものがあり、「東京大学」や「東京教育大学(今の筑波大学)」はじめていくつかの大学は入試がありませんでした。

(2)私は、現役、つまり浪人をせずに、慶應義塾大学法学部法律学科に入学をしましたが、東京大学の入学試験がなかったため、東京大学法学部を目指していた高校3年生や予備校に1~2年通っていた浪人生が百人以上も同級生にいました。

(3) 私が大学に入学して驚いたのは、びっくりするくらい多くの同級生が授業の始まるかなり前から教室に来て、前の席から座り、モクモクと勉強していたことです。成績のよい人ほど、早くから教室に来て勉強していました。

(4) 何年かして、本郷の東京大学法学部の授業を受けに行ったことがあります。(当時はおおらかで、他の大学に授業を受けに行く人も少なからずいました。私も慶應大学を卒業したあと、司法試験の勉強をしていましたので、2～3年東京大学に通っていました。)

(5) やはり東京大学法学部でも成績のよい人ほど前の席で先生の講義を聞いていました。その数は、慶應大学の3～4倍。時には、500名以上入る大きな教室が前の席からあっという間に満席になることもありました。

(6) 開倫塾を創業してしばらくしてから、経営はじめいろいろな勉強をするためにさまざまな勉強会に参加してきましたが、あるときハッと気づいたのは、いろいろな分野で尊敬を集めている人ほど、勉強会の会場に到着するのは一番早いということです。一番早く来て、その日に配付された教材や資料として使われるものに熱心に目を通しておられます。

(7) 私の尊敬する経営者に栃木富士産業の会長や栃木県経営者協会・栃木県生産性本部の会長をおつとめになった栗原義彦さんという方がおられます。栗原会長は、どんな会合にも一番早く到着して一番前の席に着席なさり、その日の資料に熱心に目を通され、講師のお話を熱心に聞き、メモをとり続けておられました。そして、講師の先生のお話が終わったあとに、必ず、大切なポイントにつき御質問なさっておられました。

(8) このように、優秀な学生も、優秀な経営者も、一番早く教室や会場に到着して、一番前の席で資料に十分目を通し、先生のお話を熱心に聞き、ノートを取り、大事なところは質問をするようです。

(9) このことに気づいて以来、時間に余裕のあるときには、私も可能な限りできるだけ早く到着して、今までの資料やノートに目を通し、復習をしてからさまざまな勉強会や会合に参加、積極的にノートにメモを取り、先生や参加者の議論にも参加、終わったあとは、ノートを整理し、大事なことは少しでも頭に入れるようにしています。

社会に出ても、学校で身につけた勉強の仕方は役に立ちますよ。

Q：授業時間の前に、今まで勉強したことを見直したり、その日に勉強する内容を予め読んでおく
とよいというお話がありました。なぜですか。

A：(1) 言い質問ですね。(It is a very good question!!)

2つにわけてお話ししましょう。まずは、授業前に今まで、つまり、前回までに勉強したことを見直すことはなぜ大事かについてお話しします。

(2) 新しいこと、つまり本日の授業内容を100%完全に「理解」するためにはどうしたらよいか。もちろん、本日の授業を真剣に聞くことは大事です。

(3)ただ、よく考えれば、本日の授業は、今までに(前回までに)勉強したことがよくわかっていることを前提に、その続き、その次のことを学ぶ場合が多いです。

(4)もちろん、先生は授業の仕方を工夫していますから、今回までの内容を十分に「うんなるほど」と「理解」したり「スミからスミまですべて」身につける、つまり「定着」していなくてもO.K.、大丈夫なように、復習も兼ねた説明を上手にして下さると思います。

(5)ただ、一番よいのは、先生が親切にそのような復習のための説明をして下さらなくても、自分自身で今まで、前回までに勉強した内容について「うんなるほど」と十分に「理解」し、スミからスミまでよく身につけた上で、今回、つまり本日の授業に臨むほうが、今回の授業の内容について100%完全に「理解」することができる可能性は高い、そう言えます。

(6)そのための一番簡単な方法は、授業の前に、教科書などの教材の最初のページから、今まで、前回までに勉強した内容を、ゆっくりでもハイスピードでもよいから、もう一度読み直すことです。「授業」や「自分で勉強」して一度「うんなるほど」とよく「理解」し、そのあと「音読」「書き取り」「計算・問題」の「定着のための三大練習」を繰り返して、一語残らずスミからスミまでほぼ完全に覚えた内容であれば、ゆっくり読んでも超スピードで読んでもあつという間に思い出し、さらに「理解」が深まります。「記憶の痕跡」がさらに深まりますので、「定着」も深まり、より完全に身につきます。

(7)今まで勉強したことをほぼ100%完全に「理解」し「定着」させた上で、次の新しい内容の「理解」に努めると、新しい内容を完全に「理解」する可能性が高まります。

(8)これは、「新しいことを100%完全に理解するには、それまでに学んだことを100%完全に理解し、定着させることが効果的だ」という考えです。

(9)難しいことばで、これを「完全学習理論」または「完全修得理論」、英語で Perfect Mastering Theory (パーフェクト・マスタリング・セオリー)と言います。

(10)「～理論」というと難しそうですが、成績のよい人の多くが自分でも気づかずに、実際にやっている勉強の仕方です。

(11)やり方は簡単。「理解」し、「定着」させるという形で確実に勉強したところまでを授業前や時間があるときに、ジーンと読み直すことです。もっとよいのは、周りに人がいないときには大きな声でどンドン「音読」することです。人がいるときには他人の迷惑にならないようにモグモグ声を出さずに「音読」することです。

(12)県内で一番難しい高校も、日本で一番難しい東京大学も、難しい国家試験も、このやり方、つまり今までに勉強したことを完全に「理解」し、完全に「定着」、身につけてから、次の新しいところを勉強するという方法で合格を果たした人が数多くいらっしゃいます。

Q : 具体的にはどうすればよいのですか。

A : (1) 今日、例えば 95 ページから 100 ページまでの 5 ページを授業で勉強するとしたら、授業の前に 1 ページから 94 ページまでを大きな声で、または、人に聞こえないようにモグモグと音を出さないで「音読」することです。または、黙読することです。

(2) 今まで何回も、いや、何十回も勉強したところなので、それほど多くの時間はかかりません。

(3) 今は夏休みなので、1 学期に勉強した教科書や教材、開倫塾の夏休みのテキストなどを利用して、ぜひやってみてください。やればやるほど頭が冴えてきます。これを 8 月いっぱいやればどんどん成績が上がり、秋には自分でもびっくりするほどに頭が冴え渡ってきますよ。

Q : なぜ「その日に勉強する内容を授業の前に予め読んでおいたほうがよい」のですか。

A : (1) これは、「予習は何のためにするのか」と言い換えることのできる大きなテーマですね。

(2) 「予習は何のためにするのか」については、「予習は何がわからないかをはっきりさせてから授業に臨むためにするもの」が私の考えです。

(3) 学校の教科書や開倫塾のテキスト・問題集など、皆様が、今勉強するために通っているところを使っている教材は、これから学ぶところは先生の授業をお聞きするような真剣な態度で、一語一語一体これはどのような意味かを深く、深く考え、読み進める。計算や問題があったら、すべて自分の力でいねいに、いねいにノートに解いてみる。

(4) そして、どうしてもよくわからない「ことば」「語句」があれば、「辞書」や「用語集」、各科目の学年別「参考書」を用いてどんどん調べ、「ああ、これはこのようなことか」と「理解」するように努力する。その調べた内容はノートにメモする。たっぷり書ける「A 版」の「大型ノート」は、このようなやり方での予習にとっても役に立ちますよ。

(5) 自分でいくら考えても、調べてもわからないところはどこかをはっきりさせるのが「予習の目的」だと私は考えます。その自分でいくら勉強してもわからないことを、先生から教えていただくのが「授業」だと私は考えます。

(6) このようなやり方で予習をすると、先生の授業時間が待ち遠しくてたまらなくなります。

(7) 栃木県足利市に日本最古の学校「足利学校」があります。今から 500 年以上前の室町時代からある「足利学校」には、「学僧」と呼ばれる学問を志す僧侶、つまりお坊さんが一時は全国から 3000 名も集まり、座主と呼ばれた当時日本でも有数な優れた先生の教えを受けたと言われています。遠くは九州から何十日もかけてやってきた学僧の中には、自分ではどうしてもわからないことがあったので、足利学校で校長先生である座主の教えを受け、よくわかったので、その翌日には故郷のお寺に帰った学僧もいたと言われます。いくら自分で勉強しても、どうしてもわからないことがある。それを教えていただくために、日本で一番優れた先生の元に出かける。予習とは何のためにあるのかを考えるよいヒントも、日本最古の学校「足利学校」にあるようです。

(8) ちなみに、今、私がお話した「予習とは、自分でわからないことは何かをはっきりさせて授業に臨むためにするものだ」という考えは、かつて東京大学法学部の民法の先生であった星野英一先生から教えていただいた考えです。

(9) 東京大学法学部に入学してよい成績を取っていた人は皆、この考えで勉強していました。

(10) もう少しお話しすると、定期テストの前には教科書やノートをスミからスミまでよく「理解」した上で、すべてをよく覚えたほうがよいという勉強の仕方は、東京大学法学部に一番で入学して一番で卒業し、日本の民法学の第一人者と言われた東京大学法学部教授の我妻栄(わがつまさかえ)先生のお考えをベースにしたものです。

(11) 我妻先生のお弟子さんである星野先生の予習についての考えは、我妻先生の復習についての考えをさらに発展させたものです。東京大学に限らず有名大学の法学部には、自分の恩師の考えをさらに発展させるという「よき伝統」があります。

(12) 開倫塾で学ぶ塾生の皆様に、この夏お伝えしている勉強の方法は、現在どのような成績でも努力さえすればどんどん成績が上がる方法です。また、今、よい成績を取っている人も、このやり方を参考にしてもらえれば成績はもっとももっと上がるというものです。東京大学には3000名も合格するので、東京大学で勉強したければ、東京大学のトップクラスの人がしていた勉強の仕方を、私が今示した復習や予習の仕方も参考にしながら、小学生、中学生、高校生のうちから少しずつ身につけて下さいね。

Q : 最後に一言どうぞ。

A : (1) このように大切な授業ですから、「欠席」や「遅刻」、「早退」、「居眠り」、「私語(おしゃべり)」、「徘徊(うろうろすること)」、「ケータイ」、「ポーツとしていること」はできるだけ避けて下さいね。

特に「私語」は、他の人の「理解」の妨げになります。授業妨害とも言えますので、学校でも開倫塾でも絶対にしないで下さいね。

(2) 今回お話しした内容の一部は、明後日7月30日土曜日(午前9時15分~25分)のCRTラジオ栃木放送「開倫塾の時間」でもお話しします。周波数は、1530kHz 1062kHz 864kHz ですので、ぜひお聞き下さいね。(この文章は、7月28日(木)9時30分~40分に収録した直後に書いています)。

400字詰の原稿用紙で16枚目に入りましたので、今日はこの辺で失礼します。

今日も、ここまでよく読んで下さり、ありがとうございました。少しでもよいですから、参考にして下さいね。

以上

2011年7月29日(金)

「計算・問題」に強くなる勉強方法とは

なぜそのような答えになるのか、よく「理解」できた「計算・問題」は問題を見た瞬間に条件反射でパッパッパッと答えが出てくるようになるまで、何回も繰り返して「計算・問題練習」をしよう。

開倫塾
塾長 林 明夫

Q: 前回(第6回)の「予習は、よくわからないところをはっきりさせて授業に臨むためにするもの」というお話は面白かったです。

具体的には、どのように予習をしたらよいのですか。科目別に教えて下さい。

A: (林明夫: 以下省略) 参りましたね。各科目の予習の仕方のお話を始めると時間がかかり過ぎて、今回のお話に入れなくなりますので、来週、つまり8月に入ったらゆっくりとお話をさせて頂きます。私も何日か考えて、皆様にお伝えすることを整理しておきますから、皆様も各科目の予習はどのように、また、どこまですれば「何がわからないかをはっきりさせて授業に臨むこと」ができるかをお考え下さい。私にとっても来週までの宿題、皆様にとっても宿題としましょうね。

Q: わかりました。それでは、今回のテーマである「計算・問題」に強くなる勉強方法とは何かを教えてください。

A: はい。「計算・問題」に強くなる勉強方法は3つあります。

(1) その第一は、なぜそのような答えになるのか、「うなるほど」と授業中によく「理解」すること。

(2) 第二は、授業が終わったらできればその日のうちに、その日の授業でやった「計算・問題」を解答を見ないで「ノート」にもう一度やり直してみることに。

(3) 第三は、なぜそのような答えになるのか、「うなるほど」と「よくわかった」、よく「理解」できた「計算・問題」は、それを見た瞬間に、条件反射でパッパッパッと正解が出るまで何回も繰り返して「計算・問題練習」をすること。
以上の3つです。

Q: はい、わかりました。1つ1つわかりやすく説明して下さい。「なぜ、そのような答えになるのか、『うなるほど』と授業中に『理解』する」とは何ですか。

A: (1) 例えば、「 2×3 」の答えは何ですか」という問題が算数の教科書にあったとします。

(2) 授業中に先生の指示で、皆様はその問題を「ノート」に書き写し、まずは自分の力で解いて、「 $2 \times 3 = 5$ 」という答えを書いたとします。

(3) 先生は、「では、解答を言います」と言って、この「 2×3 」という問題はどのようなことを、いろいろな例を用いてわかりやすく説明して下さい、最後に、「だから6」という答えになるのですよ」と「理解」させて頂きたいと思います。

(4) 「 $2 \times 3 = 5$ 」と書いた皆様は、授業での先生のわかりやすい説明を聞いて、「そうか、2に3

をかけるとはそういうことなのか」とよく「理解」できると思います。

(5)なぜそのような答えになるのか、「うなるほど」と「よくわかること」、これが授業での「理解」です。

(6)学校や開倫塾で勉強する内容の中には、「計算」や「問題」がたくさん含まれています。「学校」の「教科書」や「問題集」、「開倫塾」の「テキスト」や「問題集」、「まとめ教材」の中に含まれている「計算」や「問題」のうち、皆様にとって大切なものを先生が選んで下さり、「これはこのような理由で、このような答えになるのですよ」とわかりやすく説明して下さい。「そうか、そういうことなのか」、「うなるほど」と「理解」させて下さい。

(7)ですから、まずは自分の力でその「計算」や「問題」をやったあと、授業をよく聞き、「なぜその答えになるのか」を「よくわかる」まで、「腑に落ちる」まで十分に「理解」して下さいね。大丈夫ですか。

Q:はい、大丈夫です。よくわかりました。二番目の「授業が終わったらできればその日のうちに、その日の授業でやった「計算・問題」を解答を見ないで『ノート』にもう一度やり直してみる」とは、どういうことですか。わかりやすく説明して下さい。

A:(1)「学校の成績がよい、あまりよくない」、「偏差値が高い、あまり高くない」、「学力がある、あまりない」に、「頭がよい、あまりよくない」は全く関係ありません。

(2)授業中に先生から熱心な授業を受け、「ああ、これはこういうことなのか」と「理解」した内容を身につけたかどうかで、「成績」や「偏差値」、「学力」は決まると私は考えます。

(3)同じ授業に出ていたのですから、先生からの授業で「うなるほど」とよく「理解」するまでは誰も同じです。

(4)「成績」や「偏差値」、「学力」に、「よい、あまりよくない」の違いが出るのはなぜか。その理由をつきつめて、自分の頭でよく考えてみましょう。

(5)授業中に先生のお話を「うなるほど」と「理解」するためには、授業の受け方、参加の仕方もちろんだ事です。欠席や遅刻、早退、私語(おしゃべり)、居眠り、ケータイ、徘徊をしたり、ボーッとしたり、他のことを考えていたりしては、授業での「理解」は難しいと言えます。手を机の上に置き、先生の目を見て、一言も聞き逃さないぞという真剣な態度で授業に臨むことが大事です。また、先生のお話や黒板に書いたことのすべてを何から何まで詳細にノートにメモを取り続けることも大切と私は考えます。そのようにしたあと、「計算」や「問題」を自分のものとして身につけるにはどうすればよいかということが、ここでの問題です。

(6)学校の「成績」や模擬試験の「偏差値」、「学力」を短期間で一気に大幅に上げたいのなら、その日の授業でやったすべての「計算」と「問題」を一つ残らずその日のうちにもう一度やり直すことが、一番効果的です。「成績」や「偏差値」、「学力」のあまり高くない人のほとんどは、「計算」や「問題」をもう一度やっていません。「計算」や「問題」をきちんとやり直している人の多くは、学校の「成績」もよく、模擬試験の「偏差値」も高く、「学力」も高いようです。是非やって下さいね。

(7) 「計算」や「問題」をもう一度やり直してみて、答えを間違えたもの、どうしてもできないもの、答えが出ないものがあったらどうするか。

(8) 答えを間違えた「計算」や「問題」は、おっくうがらないで、もう一回ていねいに必ずノートにやり直して下さいね。

(9) どうしてもできない「計算」や「問題」は、学校の「教科書」や開倫塾の「テキスト」をもう一度勉強し直す。「解答」がついているものは、その「解答」の説明を、学校や開倫塾の先生の授業をお聞きするような熱心さで一語一語真剣に読む。できれば、「ノート」に「ゆっくり」と写してみる。そうしながら、なぜこの「計算」や「問題」はこの「解答」になるのかが「うんなるほど」とよく「理解」できるまで、ゆっくりでよいですから自分の頭で考えること。そして、その「計算」や「問題」を何も見ずに自分の力でもう一回ノートにやってみること。ゆっくりでよいですから、時間をかけてこれを是非実行して下さいね。

Q: そうすると、学校の「教科書」や開倫塾の「テキスト」、ありとあらゆる「問題集」には、授業中や自分で勉強しているときに「答え」を書き込まないほうがよいのですか。

A: (1) すばらしい質問ですね。(It is a very good question!!)

(2) その通りです。「計算」や「問題」はその日のうちにもう一度やり直したり、このあとにお話するように、条件反射でパッパッと正解が出るまで何回も、場合によっては何十回も繰り返してやり直し、完全に身につけるものです。「計算」や「問題」の横に「正解」を書き込んだら、そのような勉強の妨げとなりますから、「正解」は書き込まないほうがよいというのが私の考えです。

(3) 「成績」、「偏差値」、「学力」の高い人ほど、「教科書」や「問題集」の「計算」や「問題」の横への「正解」の書き込みは極めて少ないようです。偏差値 70 以上を取りたかったら、「教科書」や「問題集」には絶対に「正解」を書き込まないことです。

(4) どうしても教科書や問題集に正解を書き込みたいのなら、「入学試験」の直前にしましょうね。入試直前の最後の勉強として書き込むのなら OK です。それまで楽しみにとっておくというのも、一つの考えです。

(5) ただし、どうしても「教科書」や「問題集」に「計算」や「問題」の答えを書き込まないと気が済まないというのなら、話は別です。答えを書き込んでいる場合には、2 回目、3 回目と何回も「計算」や「問題」をやり直すときには、必ず「小さな紙」などを予め用意して、「答え」が見えないようにしてやって下さいね。これだけは「お願い」です。

Q: よくわかりました。授業が終わったあと、その日の授業でやった「計算」や「問題」はすべてやり直してみます。第三の「なぜそのような答えになるのか、『うんなるほど』と『よくわかった』、よく『理解』できた『計算・問題』は、それを見た瞬間に条件反射でパッパッと正解が出るまで、何回も繰り返して『計算・問題練習』をすること」とは、どのようなことですか。

A: (1) 例えば、先程例に出した「 $2 \times 3 = 6$ 」で言えば、 2×3 がなぜ 6 という答えになるか、よく「理解」できたら、 2×3 という計算を見た瞬間に「パッ」と「6」という「正解」が出るまで、「 $2 \times 3 = 6$ 」、「 $2 \times 3 = 6$ 」と何回も、何十回も 2×3 という計算練習をするとよいということです。

(2) また、例えば、「日本国憲法の三大原理は何か」という問題があったとします。「日本国憲法とは何か」、「三大原理とは何か」がまずはよく「理解」できた。次に、なぜ「国民主権」と「基本的人権の尊重」、「平和主義」の三つがその正解になるのか、その一つ一つは一体どのような意味かがよくわかった、「理解」できたら、そのあとどうするか。「日本国憲法の三大原理とは何か」という「問題」を見た瞬間に、「国民主権」、「基本的人権の尊重」、「平和主義」の三つが条件反射で「パッパッパッ」と口をついて出てくるまで、何回も何十回も「練習」することです。

(3) テストは漢字で正確に書けなければ点数にならないので、また、書く練習をしておいたほうが記憶の痕跡が残りやすいので、書く練習も十分にしておきましょう。

(4) 学校で勉強している間に書く練習をしておくことを、私はお勧めします。大学生や大学院生になったり、社会に出たりすると、忙しくて書く練習までしている時間がない方が多いようです。「書く練習」は、高校3年生まででできるだけ多くしておくことをお勧めします。

(5) 国語や英語の長文問題、図形の証明問題、高でやる微分や積分の問題などは、「パッパッパッ」と「正解」を出すような問題ではないのですが、それらについても「解答の大筋」はある程度筋道を立てて「これはこうだから」と論理的に覚えておいたほうが望ましいと考えます。自分なりに工夫してみてくださいね。

(6) 以上をまとめて「計算・問題練習」と私は名付け、「定着のための三大練習」として、「音読練習」、「書き取り練習」の次に「計算・問題練習」を入れました。

Q: 最後に一言どうぞ。

A: (1) 「計算」は算数や数学、理科が中心ですが、「問題」は算数や数学、理科にはもちろんのこと、英語や国語、社会などすべての科目にあります。今回お話しした「計算・問題」に強くなる3つの方法、つまり、授業に真剣に参加して、「計算」や「問題」がなぜそのような答えになるのかを授業中に「理解」すること。

授業が終わったあと、できればその日のうちに授業中に勉強した「計算」と「問題」をすべて「ノート」にやり直すこと。やり直して、よく「理解」できない「計算」や「問題」をできるだけなくすこと。

* 自分でやり直してみても、どうしてもわからないものがあたら、早めに学校や開倫塾の先生に質問して下さいね。

(2) 以上のような勉強をして、なぜそのような解答になるのか、「うんなるほど」と十分に「理解」した「計算」と「問題」については、「計算」や「問題」を見た瞬間に条件反射で「パッパッパッ」と答えが出せるようになるまで、繰り返し、繰り返し練習をし続けること。

Q: ちょっと聞き忘れましたが、「計算」や「問題」を見た瞬間に条件反射でパッパッパッと正解が出ると何かよいことがあるのですか。

A: (1) ありとあらゆるテストのときに、条件反射でパッパッパッと正確に答えが出せる「計算」や「問題」が多ければ多いほど、「時間」に余裕ができて、初めて挑戦する計算や問題、じっくり時間をかけて考える計算や問題を解く時間を多く生み出すことができます。

(2) 熟知している計算や問題は、パッパッパッと素早く、また、確実に解き、あまった時間で難しい計算や問題をじっくり解く。これが、難しい内容が出題されるテストで高い点数を取る秘訣です。

(3) 夏休みの最後や9月に入ってから行われる定期テスト、模擬テストでよい成績を取り、また、偏差値を一気に上げたかったら是非挑戦して下さいね。

(4) 大学や大学院に進学してからも、社会に出ても、小学校や中学校、高校のときに「理解」した上で正確に「定着」、つまり覚えたことはものすごく役に立ちます。時間は多少かかりますが、よいことだらけですので、がんばってやってみて下さい。

(5) 今日は、夕方から夜にかけて、法政大学大学院の政策創造研究科で90分の授業を2コマ分、主に社会人大学院生を対象に講義するため、これから何時間か準備をしなければなりません。ですから、今回のお話はこれでおしまいです。また、来週おめにかかりましょう。

(6) この2011年夏塾長特別講義の内容は、開倫塾のホームページ(www.kairin.co.jp)の「林明夫」のコーナーですべて公開しています。今までの分も入っていますし、また、これからの分も入れる予定ですので、よかったら御高覧下さい。

(7) 昨年(2010年度夏)の内容も私の同じホームページに入っています。是非御覧下さい。

(8) 最後まで読んで下さり、ありがとうございました。

以上



2011年8月1日(月)

受験生は眠る時間と生活に必要な時間以外は勉強を
 受験勉強の勉強時間は長ければ長いほどよい

開倫塾
 塾長 林 明夫

Q : 今日から8月に入りました。中学3年生、高校3年生などの「受験生」は、一体夏休み中は一日に何時間くらい勉強すればよいのですか。

A : (林明夫 : 以下省略)

(1) これは素晴らしい質問です。(It is a very good question!!) やっと本気になってきましたね。受験生は一体一日に何時間勉強したらよいのかという御質問ですね。このような質問が出てくるのは、皆様が本気になった証拠です。素晴らしい質問と考えます。

(2) 私の答えは、「眠る時間以外は勉強するとよい」です。ただし、睡眠時間は生きていく上で大切です。最低でも小学生は8時間以上、中学生は7時間以上、高校生は6時間以上必ずとって下さいね。

(3) また、食事やトイレ、入浴、家の掃除など生活に必要な時間も2~4時間は必要です。

受験生の1日の勉強時間

$$1 \text{ 日 } 24 \text{ 時間} - (\text{睡眠時間} [6 \sim 8 \text{ 時間}] + \text{生活に必要な時間} [2 \sim 4 \text{ 時間}]) = \text{勉強時間}$$

(4) 次に、この公式に自分で数字を入れて、自分は受験生として何時間勉強したらよいのかを考えてみましょうね。

$$24 \text{ 時間} - (\text{睡眠時間} \square \text{ 時間} + \text{生活に必要な時間} \square \text{ 時間}) = \text{受験生としての勉強時間} \square \text{ 時間}$$

(5) 大学入試を目指す高校生なら 24時間 - (6時間 + 2時間) = 16時間となり、16時間という勉強時間が考えられます。

(6) 高校入試を目指す中学生なら 24時間 - (7時間 + 3時間) = 14時間となり、14時間という勉強時間が考えられます。

Q : そんなに長い時間どうやって勉強したらよいのですか。

A : (1) 開倫塾では、先生方の勤務時間中は空いている教室を自習室として無料で開放しますので、夏期講習会やお盆特訓、8月分授業などの正式な授業時間以外の時間でも勉強して OK です。

(2) ただし、「おしゃべりやケータイなど勉強以外は一切禁止」です。開倫塾の先生方の指導の通り、できるだけ集中して勉強して下さいね。今日は、どの科目をどの教材でどのように勉強するのか、勉強の「手順」、「順序」をできるだけ具体的に考えて下さい。開倫塾の先生方の指導を受けながら、自習室での勉強の仕方を考え、どんどん実行して下さいね。

(3) 今週は天候が不順のためあまり暑くならないようですので、午前中は朝食を食べたらグズグズしないで、8時ごろからサッと机に向かい始め、正午までの4時間はできるだけ家で集中的に勉強することをお勧めします。

(4) 私が第1回から前回の第7回まで御説明した勉強の仕方をもう1～2回読み直していただき、できるだけその通りにやってみて下さい。時間はかかりますが、今までの成績には一切関係なく、どのような方でも必ず成績が大幅に向上します。今日8月1日から1か月間、この通りに勉強し続ければ、成績は飛躍的に向上します。問題は、どのようにしたら長時間の勉強ができるかです。

(5) 午前中は家で4時間机に向かい、午後から夜にかけては開倫塾の自習室を活用するのも、一つの方法です。がんばって下さいね。

Q : 最後に一言どうぞ。

A : (1) 今、アメリカの国の債務(借金)の問題で世界経済が大きな危機的な状況にあります。アメリカの国の借金の問題が解決しないと、日本の経済にも栃木県や群馬県、茨城県の企業にも大きな影響が生じます。

(2) この世の中で何が起きているのかを知るために、是非、今日8月1日から8月31日までの1か月間、新聞をよく読むことを皆様にお願ひします。

私も皆様に少しずつお伝えしたく思いますが、皆様もこれからどうしたらよいかを自分の頭で考え、自分のこととしてやるべきことをやって下さいね。

では、今日はこの辺で。

以上

改訂版

2011年8月2日(火)

「理解」、「定着」した内容を「応用」し、テストで高得点を取るには
この夏、偏差値を10～15アップさせる具体的方法

かいりんじゆく
開倫塾
じゆくちよう あきお
塾長 林 明夫

Q：第1回から第8回までで、「理解」と「定着」は大体わかりました。塾長のいう「理解」と「定着」だけで、「学校の定期テスト」で100点が取れますか。模擬試験で60～70の偏差値が取れますか。

A：(林明夫：以下省略)

(1) 何がわからないかをはっきりさせて授業に臨むために、学校や開倫塾の「教科書」や「テキスト」、「問題集」を用いて徹底的に「予習」する。

「授業」の受け方。欠席、遅刻、早退、居眠り、ケータイ、徘徊、ボーッとしないこと。手を机の上に置いて先生の目を見る。先生のお話を一言も聞き逃さないと一心不乱に真剣に聞く。先生の指示通りに積極的に授業に参加する。そして、「ああ、これはこういうことなのか」と授業の内容を十分に「理解」する。

「ノート」もびっちり取る。

「授業終了後」は、その日に勉強した内容をもう一度ゆっくりと読み直す。「ああ、これはこういうことなのか」と「理解」を深める。また、授業中に勉強した「計算」や「問題」はすべて、ノートにもう一回やり直す。わからないことや間違っただけがあれば、もう一度勉強し直す。どうしてもわからなければ、学校や開倫塾の先生に聞く。

このようにして「理解」した内容をスミからスミまで身につけるために「定着のための三大練習」、つまり「音読練習」と「書き取り練習」、「計算・問題練習」を何回も何十回も、科目によっては何百回も繰り返し行う。「練習は不可能を可能にする」と確信して、この3つの練習を徹底的に行う。

わからない「ことば」や「語句」があったら、「辞書」や「用語集」、「各科目の学年別参考書」でどんどん調べる。その内容はその場で「理解」する。ノートにも必ず記録する。一度調べた「ことば」や「語句」の意味や内容を記してあるノートは、いつも1ページ目から繰り返し読む。「ことば」や「語句」とその「意味」や「内容」を忘れないようにする。

「読書による思慮深さ」を身につけるために、毎日少しずつでも読書をし、気に入った文章に出会ったら「書き抜き読書ノート」にたとえ一行でも書き抜き、折に触れて繰り返し読み直す。「新聞を読んで自分で考える力、批判的思考能力を身につける」ために、小学生は20分、中学生は40分、高校生は60分以上新聞を毎日読む。地図帳で地名を確かめる。わからない

ことばの意味を辞書で調べる。興味のある記事は、「スクラップ・ブック」に貼りつける。家の人に断ってから前の日の新聞の記事を「ハサミ」で切り取り、「のり」で「スクラップ・ブック」に貼りつける。題をつけて感想や自分の意見も書いておく。

このような地道なコツコツとした勉強には時間がかかるので、夏休みは「眠る時間(睡眠時間)」と「生活に必要な時間(食事、トイレ、入浴、掃除、その他)」以外の時間はひたすら勉強する。午前中は家で勉強し、午後から夜にかけては開倫塾の自習室で一人静かに机に向かうのも一つのやり方です。

(2)よく思い出して頂ければ、以上のような内容を2011年夏塾長特別講義として、今までお話しさせていただきました。これらをすべて忠実にやって下されば、現在の成績に全く関係なく、学校の秋に行われる定期テストで誰でも全科目100点が取れます。受験生の皆様は、8月下旬に行われる模擬試験で、今よりも5~10以上偏差値を上げることができます。私が言った通りの勉強を3~4か月行えば、今の偏差値には関係なく、誰でも偏差値60は取れます。今、偏差値が50以上の人は70以上まで上昇します。

時間をかけさえすれば、「理解」と「定着」をコツコツやるだけで、誰でも「学校の定期テスト」で100点が取れます。

(3)ですから、御質問に対するお答えは「はい、取れます」です。勉強は自覚をもってやるか、やらないかです。自覚をもって、私がこれまで御説明したやり方で「理解」と「定着」にひたすら励めば、すべてのテストで必ずよい成績が取れますので、しっかりやって下さいね。

Q:「学習の3段階理論」とは、勉強を3つの段階に分け、「うなるほど」と「理解」した内容を「定着のための三大練習」でスミからスミまで正確に身につけた上で「応用力」を高めるものと、開倫塾で教わりました。「理解」と「定着」だけで定期テストで100点が取れ、模擬試験で偏差値60~70以上が取れるのなら、「応用」力を高める勉強はしなくてもよいのですか。

A:(1)それは素晴らしい質問ですね。(It is a very good question!!)そのような御質問が出るのを、私は待ち望んでいました。素晴らしい質問をして頂き、ありがとうございます。

(2)おっしゃる通りです。学校の教科書や開倫塾のテキスト、問題集、教材、授業中のノートを十分予習した上で、先生方の授業をしっかり受け、すべて「うなるほど」と「理解」し、「定着のための三大練習」でスミからスミまで覚え込めば、学校の定期テストで100点が取れます。模擬試験で60~70以上の偏差値が誰でも取れます。

(3)もっと言えば、私立中学校入試や高校入試、大学入試、大学院入試などの入学試験をはじめありとあらゆる国家試験や資格試験でも、教科書と問題集、教材、授業中のノートをしっかり予習し、授業をきちんと受けた上で、スミからスミまで一語残らず覚え込めば、合格点を取れます。そのような方々は、私の知り合いにも今までの塾生にもたくさんいました。

(4)ただ、念のためにやっておいたほうがよいのが、「応用」力をつけるための勉強です。

Q:「応用」とは何ですか。どのような勉強をすれば、応用力が身につくのですか。

A:応用とは、「理解」、「定着」したことを「用いる」ことです。「理解」、「定着」したことを用いて、「学校の定期テストで100点を取る」、「試験で合格点を取る」、「社会での生活に役立てること」、この3つが「応用」の内容だと私は考えます。

今回は、 と についてお話しします。

Q : 「学校の定期テストで 100 点を取る」、「試験で合格点を取る」ためにはどうしたらよいのですか。

A : (1) そのテストで過去に出た問題の 5 年分以上を、最低でも 5 回以上解くことです。

(2) 「学校の定期テスト」の問題は公開されていないので、各科目の学年別の「予想問題集」を用いる以外にありません。定期テストの範囲について、5 回分以上を 5 回以上解くことです。

(3) 入学試験や資格試験、国家試験の問題は公開されていることが多いので、5 年分以上を 5 回以上解くことです。

(4) 例えば、「大学入試センター試験」なら 15 年分以上の問題が公開されていますので、当日事情があつて欠席した者のための問題も含め、30 回分を 5 回以上解くことです。

(5) 「過去に出た問題」を、私は「過去問」と名付けました。では、その「過去問」をどのように解くのか。

(6) 何回もやり直すので、「過去問」の問題集の中に答えを書き込まないこと。ノートに「解答」を書き込むこと。これは、「学力の高い人」の「常識」です。成績のよくない人は、問題集の中に答えを書き込み、赤ペンで や x をつけて採点します。これでは、その問題ができてよかった、できなかったで残念ということになってしまいます。できた、できなかったに一喜一憂するだけで、成績の向上とは全く関係ありません。偏差値が上がることもありません。

(7) ノートに答えを書き、正解できなかった設問があつたら、その「原因」、「理由」を自分の頭で徹底的に考えることです。

「理解」不足で間違えた、できなかったのなら、「教科書」や「参考書」、「辞書」、「用語集」、「授業中のノート」などを用いて、「うなるほど」と「理解」できるまで徹底的に調べることです。調べたことは、「解答」を書いた「ノート」に「書き込んでおくこと」です。

「理解」はしていたのだけれども、うる覚えや「パターン練習」不足が原因で間違えた場合は、「音読練習」や「書き取り練習」、「計算・問題練習」をやり直すことです。

今までやったことがない、考えたこともないような問題であつたために間違えたのなら、「新出問題」を研究しましょうね。

(8) このようにして、まずは過去問を 1 回ノートに丁寧に解いた後、間違えた問題についてはその原因を徹底的に調べ、調べたことを「ノート」にメモ、記録する。そして、必要な「練習」をその場でやり遂げて下さい。

(9) その日でもよいし、翌日でも O.K. ですから、2 年目の「過去問」をやる前に、1 年目の過去問をやり直して下さい。(2 回目だから、スラスラできると思います。やり直しても間違えたら、素直な気持ちでもう一回その原因を考える。「理解」が不足していたら、また調べ直す。定着不足なら、「練習」を繰り返す。)

(10) 2 年目の「過去問」についても、間違えた問題、設問については、その原因を徹底的に調べ、調べた内容は「ノート」にメモ、記録、必要な練習をする。

(11) 3 年目の「過去問」をやる前に、1 年目と 2 年目の「過去問」を同じようにやり直す。

(12)このようにして過去問を5年分以上やり直すことが、「応用」力を身につけるコツと言えます。

Q：本当にこんなことをやった人がいるのですか。信じられません。

A：(1)「過去問5年分を5回以上ノートにやり直す」。これは、知っている人は知っていて、知らない人は知らない勉強の方法ですから、驚く人も多いと思います。

(2)ただ、この勉強の仕方は、私が32年前に開倫塾を創業したときから一貫して塾生の皆様にお伝えし続けてきた勉強の仕方です。私が25年間一人で担当しているCRTラジオ栃木放送の「開倫塾の時間」という日本でただ一つの番組でも、何十回も何百回もお伝えしている効果の上がる勉強の仕方です。せっかく、皆様は現在開倫塾で勉強しておられるのですから、「開倫塾の塾生」としての自覚をもって、この「応用」力を身につける勉強の方法を身につけて下さいね。

(3)ちなみに、なぜその問題ができなかったのか、間違った答えになるのかの原因を考えて、その対策をやり尽くすことを、「誤答分析」と私は名付けました。

(4)また、科目ごとの「間違いノート」と称する「ノート」に、自分でできなかった問題と解答を書き写して何回もやり直すことを、「間違いノートづくり」と開倫塾では呼びます。皆様も、「間違いノート」を活用して「間違いゼロ」を果たし、すべての問題に自信をもって下さいね。

Q：驚きました。開倫塾では、いろいろな取り組みを塾生に紹介し、多くの先輩が実行していたのですね。最後に一言どうぞ。

A：次は、いよいよこの文章をお読みの皆様の番です。私がまとめ上げた開倫塾の「学習の三段階理論」の神髄を、私は長い長い文章を書き、皆様にはそれを時間をとってお読み頂き、この夏も、この塾長特別講義で今までお伝えしてきましたので、少しずつ「理解」して頂いたことと思います。昨年の夏は、この考え方をういて偏差値を15以上上昇させた方がたくさんいらっしゃいました。もう一度申し上げます。次は皆様の出番、皆様が主役です。秋の定期テストで100点を取る、8月下旬からの模擬試験で今の偏差値を10～15以上アップさせる、また、60～70以上の偏差値を取る決意を固めた人は、第1回分からもう一度繰り返し読み直し、1つでもよいですから実行に移して下さい。では、今日はこの辺で。

以上



2011年8月3日(水)

学習効果の上がる「予習ノート」の作り方を考える
この予習の方法を身につければ成績は飛躍的に向上

開倫塾
塾長 林 明夫

Q：先週の金曜日7月29日の「2011年夏塾 長特別講義の第7回目」で、「予習はわからないところをはっきりさせてから授業に臨むためにするもの」というお話があり、最後に「来週は予習ノートの作り方」についてお話をするとおっしゃっておられました。「学習効果の上がる予習ノートの作り方」をお話して下さい。

A：(林明夫：以下省略)わかりました。学校でよい成績を取ることや受験に際して用いられる模擬試験で高い偏差値を取ることと、頭がよい、あまりよくないということは全く関係がありません。

私が9回にわたって説明したやり方で、学校や開倫塾の先生方の授業を真剣に聞き、時間をかけてコツコツと勉強した人は、学校の成績もよく、模擬試験の偏差値も高い。そう断言できます。

これに加えて、今からお話する方法で「予習ノート」を作成し、この「予習ノート」を活用すれば、現在どのような学校の成績・偏差値であろうと、短期間で学力は飛躍的に向上します。ただし、時間だけはかかります。誰の助けもありません。自分一人ですべてできます。自己責任、自助努力でできます。

学力を一気に上げたい人はチャレンジして下さい。このやり方は、上級学校に進学した後も、短期大学や専門学校、大学、大学院に進学したときも役に立ちます。社会に出て、新しい勉強に取り組むときにも役に立ちます。一生役に立つ「予習ノート」の作り方を、今から「伝授」、お伝えします。

Q：早く教えて下さい。

A：(1)「予習」の意味をもう一度確認します。予習は何のためにするのか。「予習はわからないところをはっきりさせてから授業に臨むためにするもの」でしたね。「予習ノート」を作るときも、「わからないところをはっきりさせる」と「授業に臨む」、つまり、この「予習ノート」は授業で用いるということをお話したいと思います。

(2)「わからないところをはっきりさせる」ために「予習」をする。その「結果」をノートに「メモ」、記録する。これが「予習ノート」です。

(3)ということは、自分の力で「わかる」、つまり「うなるほど」と「理解」できるところまでは自分の力で「理解」してみるということです。

(4)できれば、「予習ノート」はB版ではなくて、たっぷり書き込める「A版」を使うと極めて便利です。「ノートはA版」を用いる、これが私の考えです。「ノートの大きさ」までは誰も教えてくれませんが、私は「A版ノート」を皆様に強くお勧めします。

Q : 「ノートはA版」^{ばん}ですね。そこまではよくわかりました。そろそろ科目別に^{べつ}具体的^{くたいてき}にお話して下さい。

A : (1)はい、わかりました。英語^{えいご}からスタートします。

(2)例えば、開倫塾^{かいりんじゆく}の夏期講習^{か き こうしゆう}や 8 月分授業^{じゆぎよう}のテキストの予習^{よしゆう}はどのように行ったらよいか。お盆特訓^{おぼんとつくん}の予習^{よしゆう}はどのように行ったらよいか。その結果^{けつか}をどのように「予習ノート」^{よしゆう}に記録^{きろく}(メモ)したらよいか。その「予習ノート」^{よしゆう}を開倫塾^{かいりんじゆく}の夏期講習^{か き こうしゆうかい}や 8 月分授業^{じゆぎよう}にどう生かしたらよいか。受験^{じゆけん}学年^{みなさま}の皆様は授業^{じゆぎよう}にどう生かしたらよいか。今から考えましょう。

(3)皆様^{みなさま}にお聞きします。今日の英語^{えいご}の授業^{じゆぎよう}の予習^{よしゆう}はどのようにやっていますか。普通^{ふつう}は次のような「流れ」^{なぐれ}で、英語^{えいご}の授業^{じゆぎよう}の予習^{よしゆう}をするのではないかと思います。

(4) その日の授業^{じゆぎよう}で勉強^{べんきよう}するページがテキストの 20 ~ 24 ページだとしたら、「予習」^{よしゆう}として、まずはテキストの 1 ページから 19 ページまでの本文^{れいぶん}と例文^{れいぶん}をすべて大きな声で「音読」^{おんよみ}すること。

もし、今日はテキストの 50 ~ 54 ページまで授業^{じゆぎよう}で勉強^{べんきよう}するとしたら、1 ページから 49 ページまで大きな声で「音読」^{おんよみ}すること。

今日は 150 ~ 154 ページまで勉強^{べんきよう}するとしたら、1 ページから 149 ページまで大きな声で「音読」^{おんよみ}すること。

そんなことはできっこないと思わないで、今までやったところまでひたすら「音読」^{おんよみ}することです。

私^{わたし}が高校生のときに見ていた NHK 英会話中級^{えい かい わちゆうきゆう}という番組^{こうし}で講師^{こうし}をしていた同時通訳^{つうやく}の第一人者^{だいいちにんしや}、国弘正雄^{くにひろせいおす}先生^{せんせい}は、中学校の英語^{えいご}の教科書^{じゆぎよう}は授業^{じゆぎよう}で習^{ならつ}って意味^いがよくわかったところまで 500 回から 1000 回ひらすら音読^{おんよみ}したそうです。

そして、「音読」^{おんよみ}が終わったら、「予習ノート」^{よしゆう}の「日付け」^{ひづ}の後にテキスト ~ ページまで「音読」^{おんよみ}と必ず「記録」^{きろく}しておくこと。

Q : なぜ、新しいところに入る前に今までやったところまでを「音読」^{おんよみ}するのが「予習」^{よしゆう}に入るのですか。

A : (1)それは素晴らしい質問^{すばらしいしつもん}ですね。(It is a very good question!!)

(2)新しいことを 100%完全^{かんぜん}に理解^{りかい}するには、それまでに勉強^{べんきよう}してきたことを 100%身^みにつけることが大事^{だいじ}だからです。今日、テキストの 20 ~ 24 ページという新しいところの 100%理解^{りかい}を目指す^{めざす}のなら、今までに学んだ 1 ~ 19 ページまでの内容^{ないよう}を「音読」^{おんよみ}により 100%身^みにつけておく必要^{ひつよう}があるからです。

(3)この考え方を「完全修得理論^{かんぜんしゆうとくりろん}(Perfect Mastering Theory パーフェクト・マスタリング・セオリー)」と呼ぶ^{よぶ}ことは、御紹介^{ごしょうかい}済みですね。

(4)今までに学んだことをもう一回「音読」^{おんよみ}してから今日のところに入ることも、今日勉強^{べんきよう}することを「100%理解」^{りかい}するための大切な「予習」^{よしゆう}です。これが私^{わたし}の考えです。

(5)これをさらに進めると、一冊^{すずめる}のテキストを短い時間^{さつ}のうちに「音読」^{おんよみ}できることになります。もっと言えば、一冊^{さつ}のテキストをスミからスミまで完全^{かんぜん}に覚えて^{おぼえ}いることになります。国弘正雄^{くにひろせいおす}

先生ではありませんが、ここまで「音読」した内容は一生忘れることがありません。これが「音読」の効果です。

Q：テキストの1ページから今までに勉強した範囲までの「音読」の次は、何をしたらよいのですか。

A：(1)例えば、今日授業で勉強するのは20～24ページまでの5ページだとしたら、20ページから24ページまでを1ページずつ、日本語の説明も含めてゆっくりと「音読」することをお勧めします。

(2)次に、ゆっくりと「音読」しながら、よく読めない・よく意味のわからない「ことば」や「語句」があったら、「テキスト」に「えんぴつ」で自分で決めた「印」をつけておくことをお勧めします。英語の単語や語句だけでなく、日本語にも印をつけましょう。

(3)第3に、もう一度20ページから「音読」しながら、よく読めない・よく意味のわからない「ことば」や「語句」が出てきたら、そのたびに「辞書」(英和辞典)を引いて、その「意味」や「読み方」を調べましょう。そして、意味や読み方がわかったら、そのところをもう一度「音読」してみましょう。

(4)「英語の予習ノート」に「ことば」つまり「英単語」や、「語句」つまり「英熟語」の意味や読み方を「記録」する、「メモ」するのはその後です。

(5)予習ノートの1ページのまん中に縦に線を引く、その左側にbookやpenなどの「英単語」、a lot of～やbe interested in～などの「英熟語」を書き写す。その右側に「本」や「ペン」、「たくさん～」や「～に興味がある」などの「意味」を書き写すことをお勧めします。

(6)テキストのページではじめて調べた「単語」や「英熟語」の前に、「テキスト ページ」と「ページ」を「記録」しておく後で便利です。

(7)「英単語」の「読み方」がわからないものは、「カタカナ」ではなく、「発音記号」を必ず「記録」しておきましょうね。「カタカナ」をいくら覚えても、「英語として通じる」ことはまずありません。「発音記号」の読み方を一日も早く覚えて下さいね。「発音記号」通りにていねいに発音すれば、皆様の英語は世界中の人々に通じます。「カタカナ」は日本語ですから、「カタカナ」通りの発音をしても通じません。

(8)「英単語」と「英熟語」を1つ調べたら、その都度その場で何回も発音して、発音の仕方を覚えてみましょう。発音できるようになったら、ボソボソ発音しながら、書けるようになるまで、不要な紙を用いて何回も何十回でもその場で書き取り練習をしてみましょう。

Q：エー、辞書で調べたら、「ノート」にメモしたら、その場で「音読練習」と「書き取り練習」をするのですか。

A：(1)その通りです。よく読め、よく書けるようになったら、その「英単語」や「英熟語」が含まれているテキストの「文章」をスラスラ読めるようになるまで何回も何十回も「音読」してみてください。

(2)「音読練習」をしていて、その文章全体の意味がよくわかる、「理解」できたらどうするか。

「英語の予習ノート」の右ページのまん中に縦に一本線を引き、その左側に教科書(テキスト)の英文を写し、右側にその日本語の訳、意味を書いておきましょう。

(3)このようにして、ノートの左ページにテキスト1ページ分の「英単語」と「英熟語」の「発音」や「意味」のよくわからないものを「辞書」つまり「英和辞典」を用いて調べ、右ページに英文とその日本語訳を書きます。そして、ノートの左ページも右ページも「音読練習」と「書き取り練習」を繰り返してよくわかった、つまり「理解」した内容についてはスミからスミまで予習のときに覚えてしまう、身につけてしまうことが、私の勧める学力を飛躍的に向上させる「予習ノート」の使い方です。

(4)このような順序・手順で「予習」、つまり「予習ノート」を用いて勉強していてもよくわからないことがあったら、自分なりの「よくわからないマーク」をできればカラーを用いて「予習ノート」につけておくことをお勧めします。

(5) 多くの場合、新しく学ぶ構文や文法事項は辞書で調べただけではよくわからないと思われま

す。そんなときに大活躍するのが、中学生の場合は少し厚めの「英語の学年別参考書」です。高校生の場合は少し厚めの「英文法」や「英作文」、「英文解釈」の「参考書」です。

これらの少し厚めの英語の「参考書」を「辞書代わり」に毎日の予習のときにどんどん活用し、辞書と同じようにボロボロになるまで引いて、引いて、引きまくる人で、英語の成績がよくない人はいません。少し厚めの「英語の参考書」を徹底的に活用して下さいね。

薄い参考書は要点・ポイントをまとめたものが多いため、一度よく「理解」したことや「定着」したことをもう一度整理したり、復習したりするときには役に立ちますが、これは一体どうということかとものごとの本質をじっくり「理解」する「予習」のためにはあまり適切とは言えないと私は考えます。

参考書で調べ、「そうか、これはこうなるのか」とよく「理解」した内容も、手短かにまとめて「予習ノート」に「記録」し、繰り返し「音読」、「書き取り」をして、予習をしている中でバッチリと「定着」、身につけてしまいましょう。

Q : テキストにある「パターン練習」や「問題練習」はどのように「予習」するのですか。

A : (1)まずは、「パターン練習」や「問題文」を日本語も含めてゆっくりと「音読練習」すること。

(2)「音読」してよく読めない・意味のわからない「ことば」つまり「英単語」や「語句」つまり「英熟語」があったら、「英和辞典」を用いて調べること。

(3)「構文」や「文法事項」があったら、「英語の参考書」を用いて調べること。

(4)調べて「理解」できたら、「予習ノート」に記録し、「音読練習」や「書き取り練習」を繰り返してその場でしっかりと身につけること。

(5)「問題」や「パターン練習」を口頭でやってみるのは、その後です。問題文を読み、答えがスラスラ出るようになったら、「予習ノート」に「問題文」と「答えの文」を書いておくこと。

(6)答えがわからない問題には、カラーで「よくわからないマーク」をつけて授業に臨むこと。

(7) 「次のうちから正しいものを選びない」という形で出題される選択問題の場合には、問題文の肢にいくつかの「単語」や「語句」、文章がありますが、それらについてもよく読めないときは辞書で発音記号を調べ、また、意味を調べた上でノートに「記録」。その後、しっかりと「音読練習」と「書き取り練習」をしましょう。

Q : ずい分徹底的にやるんですね。

A : (1) はい、その通りです。

(2) このようにして、一通りの予習が終了したら、予習を終えたその日の授業範囲について「音読練習」を何回かしましょうね。

(3) 学校の教科書には CD(MD)などがありますので、それを活用して「音読練習」をする。教科書の全文がスラスラとよく読めるようにしてから、学校に出掛けて授業に臨む。これが英語の予習です。

(4) ノートは、学校の教科書 1 ページにつき 4 ページ使うとよいでしょう。

1 ページ目(見開き左側ページ)は、英単語とその意味。

2 ページ目(見開き右側ページ)は、教科書の英文とその日本語訳(1 行 ~ 2 行おきに書いておくと、授業中にメモができます)。

3 ページ目(見開き左側ページ)には、「問題練習」や「パターン練習」の予習をしたもの(このページも 1 行 ~ 2 行おきに書いておくと、授業中にメモができます)。

4 ページ目(見開き右側ページ)の上の方には予習をした「文法事項」を、下の方には「授業内容」を板書事項といっしょにメモするとよいでしょう。

(5) わかりましたか。

Q : 授業中はどうすればよいのですか。

A : 一心不乱に先生のお話に耳を傾ける。一語一句聞き漏らさない。先生がお話になったことはすべてその場で「理解」し、すべて覚えてしまうくらいの意気込みで授業に臨んで下さいね。

Q : 最後に一言どうぞ。

A : (1) 日本の景気も世界の景気もここまで悪化すると、我々にできることは英語を勉強して、国際的に活躍する以外にありません。

(2) 学校での英語の勉強は、すべて世の中に出て役に立ちます。

(3) 受験勉強で英語を勉強して何の役に立つのかと疑問をもつ人がいますが、英文法を身につけるということは、誰にでもわかる正しい英語でコミュニケーションができることを意味します。

(4) 英文法通りの英語は、きれいな英語、ていねいな英語を意味します。単語だけ並べても尊敬は得られませんが、英文法を用いたきれいで正しい英語を用いる人は、たとえたどたどしくても立派な人として尊敬されます。

(5) きれいな筆記体で英語が書ける人も、知性の高い人との評価の対象となります。自分の名前だけでも、これ以上ない美しさで書けるまで筆記体を練習して下さいね。

(6) 今日も、ここまでで 400 字詰め^{じづめ}の原稿用紙^{げんこう}で 14 枚^{まい}になってしまいました。長い長い^{わたし}私の文章^{ぶんしょう}をここまでよくお読み^{いただき}頂き、心から感謝^{かんじやもうしあげます}申し上げます。ありがとうございました。

いじょう
以上



2011年8月4日(木)

成績が飛躍的に上がる「数学予習ノート」の作り方を考える

開倫塾
塾長 林 明夫

Q：今日は、昨日の英語に続いて数学の「予習ノート」の作り方を教えてください。

A：(林明夫：以下省略)はい、わかりました。

(1)英語と同じように数学の予習をするときも、予習のはじめに必ず、教科書の1ページから今日予習をするところまでを、できればポソポソと声を出して「音読」することをお勧めします。

数学こそ、今日これから勉強する新しいことを100%完全に「理解」するには、それまでに勉強したことを確実に身につけておいたほうがよいからです。もし、どうしても声を出して読むのがいやでしたら、ゆっくり黙読をして下さいね。必ず大きな力になります。

(2)数学も、ノートはたっぷりと書き込みができる「A版」を使うことをお勧めします。

(3)「数学予習ノート」は、見開きの左ページのまん中に上から下に一本線を引き、線の左側には自分で解く「問題文」や「計算問題」を必ずすべて写す。その下に、自分の解答を書く。

左ページ

右ページ

(1)問題文 答え	授業中の 先生の 解答	(4) (5) (6)	授業中の 先生の 解答
(2)問題文 答え			
(3)問題文 答え			
授業中の先生の説明 板書事項		授業中の先生の説明 板書事項	

(4)左ページの右側にはとりあえず何も書かないで、授業のためにとっておくこと。授業中の先生の説明や板書事項を書くこととよいでしょう。

(5)左ページの下から1/3(三分の一)ぐらいは何も書かずに残しておいて、授業中に先生の説明や板書事項を書きましょうね。

(6)右ページも同様に使います。

(7)予習をしていて、どうしてもわからない計算や問題があったらどうするか。「学年別参考書」や「小学算数事典」、「中学数学事典」、「高校数学事典」などで「類題」、つまり似たような計算や問題を探して、調べてみるのが大事です。

(8)それでもわからなかったら、自分なりの「よくわからないマーク」をつけておき、授業のときに先生のお話をよく聞くことです。

(9)よく「理解」できた計算や問題は、予習の時間の最後に「計算」や「問題」を見た瞬間に条件反射でパッパッと正解が出るまで「計算・問題練習」を繰り返すことです。

(10)これが、数学の「予習ノート」の作り方・使い方です。わかりましたか。

Q：はい。何だか英語と似ていますね。最後に一言どうぞ。

A：(1)予習は何のためにするのか。「よくわからないところをはっきりさせてから授業に臨むために予習はする」ものです。

(2)今日は、栃木県教育委員会の栃木県社会教育委員会が栃木県公館であるため、これでおしまいです。

(3)この原稿を書く前に執筆した2011年8月6日(土)発行の日本経済新聞土曜版日経プラス「ニュースにチャレンジ 教えて先生」の原稿を次のページに載せませんので、御覧下さい。日本も、世界も、今や大変な状況です。

では、今日はこの辺で。

国の債務、どうやって返す

かいりんじゆく
開倫塾
じゆくちよう あきお
塾長 林明夫

1. 第二次世界大戦後の日本のように国が勢いを増している時に、返せる範囲で国が借金をして、国民の生活を便利にしたり、経済を活性化させるために社会基盤を整備したりすることは大切なことです。
2. 日本が勢いづいていた1964年の東京オリンピックの時に、日本が世界銀行からお金を借りて東海道新幹線や首都圏の高速道路を整備したのは、そのよい例です。
3. しかし、税金などからの収入が減りつつある時に、選挙で当選したいからと言って、国民がよるこびそうなことをするために国が債務危機に陥るほどの返せもしない大きな借金を重ねるのは大問題です。
4. あれもこれもやるのではなく、今やるべきことはこれだと一つ決め、国民の心を一つにして実行することが大事です。
5. 私は、外国との交流をもっと盛んにするために、学生だけでなく、すべての国民の英語によるコミュニケーション力を向上させ、英語を第二公用語にすることを提案したい。(1990年代に経済危機に陥ったフィンランドが行ったのは、全国民への英語とIT教育、それに特定地域の経済振興でした。) 返し切れないほどの借金を抱える日本が、低迷する経済の中でこれから東日本復興を果たすには、製造業だけでなく農業もサービス業も含め全産業が外国に打って出る以外にない。外国の元気な方に日本で大活躍して頂く以外にない。そのためには、世界の共通語である英語を全国民が身につけるしかないと考えます。
6. 民間でやれる仕事は民間に任せたり、民間の資金を使って公共の仕事をするなどして、効率よく仕事をするしくみをつくり借金を減らすのも、一つの方法です。
7. 家庭にいる女性が働ける機会をもっとつくる。そのために女性が働ける環境を整備することも大事。また、いつまでも若々しく生きるために、60歳すぎても生涯現役、85歳すぎても働くことのできる社会をつくること。この二つが、人口減少で働く人が減る中で、返せないほどの大きな借金を抱えてしまった日本を国家破綻させないためには大事です。
8. あきらめたらおしまいです。皆で心を合わせてがんばるしかありません。

いじよう
以上

2011年8月5日(金)

「社会・国語・理科の予習ノート」の作り方

かいりんじゆく
開倫塾
あきお
塾長 林 明夫

Q: 「予習はわからないところをはっきりさせてから授業に臨むために行うものである」という考えが、「英語」と「数学」の「予習ノート」の作り方のお話で少しずつわかってきました。「社会」や「国語」、「理科」はどのように「予習ノート」を作ればよいのですか。

A: (林明夫: 以下省略)

(1) 「社会」や「国語」、「理科」の「予習ノート」の作り方のお話をする前に、私の中学校、高校時代の思い出話をしばらく読み下さい。

(2) 私は、社会の中では、今中学生や高校生が勉強する科目で言えば、中学校3年生の「公民」と高校1年生の「現代社会」、高校3年生の「政治・経済」が大好きでした。今は高校ではあまり勉強しないようですが、高校2年生の「倫理」もかなり好きでした。(開倫塾の名前の中にある「倫」は、高校の「倫理・社会」から取ったほどです)

(3) なぜ好きになったのかと言えば、中学校3年生のときに「公民」の教科書を手にしてパラパラとページをめくっているうちに、教科書があまりにも面白くて1ページから最後のページまで一気に読んでしまったからです。

(4) あまりにも面白い内容だったので、読んだあとと少しまじめに勉強しようと思い、教科書をまとめて大事な項目だけ「ノート」に「写し取る」ことをしました。部活動と生徒会活動が激しかったので、「公民」の教科書の大事なところを写し終えるのに1か月かかりました。

(5) 柔道部は、中2の秋の新人戦の県大会で優勝していたので、中3の夏の県大会でも優勝せねばとかなり激しい練習をしていました。生徒会では、1学年10クラスで440名もいる大きな中学校の生徒会長をしていましたので、かなり行事があり、中学生としては多忙でした。部活動や生徒会でヘトヘトになるほど超多忙でしたが、なぜか「公民」の教科書だけは手放しませんでした。

* 学習塾にも週3回通っていました。

(6) なぜ「公民」が面白かったのか。「地理」や「歴史」は、「公民」と比べて「理解」し「定着」すること、つまり覚えることがあまりにも多すぎて、なぜそのような出来事があったのかという「歴史のなぜ」や、日本や世界各地で何がなぜ行われているかという「地理のなぜ」を考えるとところまでいかなかった、その余裕がなかったからです。

(7) しかし、「公民」や高校で習う「現代社会」、「倫理」、「政治経済」は、教科書をよく読むだけでなぜそうなのかがよくわかったからだと思います。

(8) なぜよくわかったかと言えば、小学校3~4年生のころから、新聞を毎日かなりの時間読んでいたからです。学校の先生に、新聞は小学生でもよく読むようにと言われたためです。

(9)新聞を毎日読むようにと教えて下さったのは、小学校 3・4 年生のときのクラス担任だった岡典子先生です。当時の社会党の市議会議員さんの奥さんだったので、とても進歩的だったのかもしれませんが、新聞を読んでいる人にとって、「公民」や「現代社会」、「倫理」、「政治経済」の教科書ほど面白くて有り難いものはありません。

(10)新聞で毎日の出来事・事件として断片的に入っていた知識の根本、基本が、教科書には体系的に示されているからです。

(11)これと同じように毎日本ばかり読んでいる人は、「国語」の授業や「国語」の教科書を読むのが好きだと思います。新聞の「科学のコーナー」や「科学の雑誌」を家や学校の図書室、図書館で読んだり、自然の観察や実験が好きなのは、「理科」の授業や「理科」の教科書を読むのが大好きだと思います。

(12)残念なことに私は、自然に親しんだり、空を見上げて星を見たりすることがほとんどなかったためか、高校に入るまでは「理科」にはあまり興味もてず、得意ではありませんでした。ただ、高校に入ると、生物や地学、物理、化学はその分野の専門の先生方から教えて頂いたためか、こんなにも面白いものかと感激させました。生物の時間に、当時はあまり知られていなかった DNA の話を聞いたときには本当に驚きました。

(13)「予習ノート」の作り方の前に私の昔話をお読み頂き申し訳ありませんが、「社会」と「国語」、「理科」の勉強で大事なものは、新聞を毎日のように読む、読書をする、自然や天体に親しむなど、それらの科目の前提となる日々の「知的な生活」だと私は思います。

(14)まとめていうと次の通りです。

新聞を読むことほど、「社会科」のよい勉強や予習となることはありません。

読書をコツコツと行い思慮深さを身につけることほど、「国語」のよい勉強や予習となることはありません。

自然や天体に親しみ、自分で実験や観察をすることほど、「理科」のよい勉強や予習となることはありません。

是非、このような活動、「知的な生活」を小学生・中学生・高校生のうちからそれなりに心掛け、各科目の勉強、「予習」として下さいね。

Q：各科目の「予習ノート」はどのように作ったらよいですか。

A：(1)英語や数学と全く同じです。

(2)B 版ではなく、たっぷり書き込める「A 版のノート」を使いましょう。今日授業で勉強する教科書のページを読む前に、1 ページめから今までに勉強したところまでをすべて声を出して読むこと。「音読」することです。

(3)どうしても「音読」したくない場合は、「黙読」(声を出さずに黙ってモクモクと読むこと)をすることです。

(4)そして、「予習ノート」の日付の横に「 ページから ページまで、音読、黙読」と「記録」しておきましょう。

必ず実行すべきこと

予習として、その日の授業の範囲を勉強する直前に、今までに勉強したところを、教科書の1

ページから今日勉強するページの前まで「音読」または「黙読」し、今までの勉強の「定着」をさらに図ること。
これから勉強する新しいことを100%完全に「理解」したければ、それまでに勉強したことを教科書の1ページから100%「定着」させること。
この夏、成績を飛躍的に向上させる秘訣はこれです

- (5)次に、教科書を「項目」ごと、「章」ごとにていねいに読み、「項目」や「章」の見出しを「ノート」に「書き写す」こと。
- (6)その下に要点を簡単にまとめて書き込むこと。これだけで「予習ノート」は十分だと思います。
- (7)ただし、意味がよくわからない「ことば」や「語句」があったら、「国語辞典」で「ことば」の意味を調べ、その意味を「ノートに書き写す」こと。
- (8)意味や内容がよくわからない「語句」があったら、各科目の「用語集」や学年別の少し厚めの参考書、「地理辞典」、「歴史辞典」、「公民(政治経済)辞典」、「小学理科辞典」、「中学理科辞典」、「生物辞典」、「物理辞典」、「化学辞典」、「百科辞典」などを用いて調べ、その内容を「ノートに書き写す」こと。
- (9)辞書などで調べた「ことば」や「語句」、その「意味」や「内容」がよく「理解」できたら、その場で「音読練習」や「書き取り練習」を繰り返して覚えてしまうこと。これが、最も賢く、堅実な予習の方法だと私は考えます。「予習」のときの「音読練習」と「書き取り練習」だけで成績は一挙に上がります。
- (10)ここまで「予習」をして、何がわからないかがはっきりしてきたら、自分なりの「よくわからないマーク」を「ノート」に「メモ」し、授業に臨んで下さい。きっと学校や開倫塾の先生方の授業が待ち遠しくて仕方がなくなりますよ。
- (11)「予習ノート」のどこに何を書かかは、塾生の皆様が自分の力でお考え下さい。どうしてもわからなかったら、学校や開倫塾の先生方に遠慮なく質問しましょうね。きっとよいアドバイスをして下さいと思います。

Q：最後に一言どうぞ。

- A：(1)教科書で紹介している「本」を「学校の図書室」や県や市や町立の「図書館」で借りてじっくり読むのも、大事な「予習」です。(これは授業が終わった後でもOKです。私など、今ごろになって小学校や中学校、高校の教科書に載っていた本を思い出したように読み、これはいい本だなと一人感じ入っています)
- (2)今日は、これから私が理事長を務める学校法人有朋学園、有朋高等学院の理事会があるために福島市に出掛けます。そのため、今日のお話はこれでおしまいです。
- (3)今までの私の文章を何回も読み返して、勉強の仕方、特に「定着」の仕方をしっかりと身につけて下さいね。

以上

2011年8月6日(土)

テストを活用して成績を大幅アップさせる勉強方法とは

開倫塾
塾長 林 明夫

Q：テストは何のためにあるのですか。

A：(林明夫：以下省略)おつ、最初から素晴らしい質問ですね。(It is a very good question!!)

(1)この「2011年夏塾 長特別講義」の文章を何回も繰り返して読んで頂き、勉強の仕方についての関心が深まってくれば、必ず一度は深く考えるテーマが「テストは何のためにあるのか」です。

(2)いろいろな考え方がありますが、私は「テストは今までに勉強してきたことを身につける、定着させて自分のものにするためにある」と考えます。

(3)世の中にあるすべての「テスト」には、これは という科目のテストであると科目名が予め示されます。また、その科目の中のどのような範囲から出題されると「出題範囲」が予め示されます。

(4)その予め示される「出題範囲」には、学校やその他で使用する教科書、テキスト、問題集、資料集からのものがあります。

(5)その予め示される「出題範囲」の大半は、学校や開倫塾などの授業で既に教わったところです。(授業で教わっていない範囲から出題されることは、めったにありません)

(6)私が何を言いたいかわかりますか。

Q：はい。「テストには出題科目や教科書をはじめとした教材の出題範囲表もあり、予め示されている。テストの出題範囲の大半は授業で教わっているところなので、テストに備えてしっかり勉強し、テストでよい点を取るように。」ということではないのですか。

A：その通りです。ここまでよくわかって頂いてありがたく思います。では、どのように準備をすれば、テストを用いて学力が飛躍的に向上するかを話します。

(1)よい点を取るために今までにやったところをスミからスミまで勉強し直すことにより、「不確かであったものを確実に身につける」ために行うのが、テスト勉強です。

(2) テスト範囲について、テキストをもう一度やり直す。特に、一度間違えた計算や問題はもう一度ゆっくりとやり返し、できるまでにする。

(3) もう一度やり直してみても意味がよくわからない「ことば」は、辞書で調べ直す。

(4) 内容がよくわからなければ、「うなるほど」とよくわかるまで教科書や参考書、授業中のノートなどをゆっくりと読み直す。

(5) 「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」などを繰り返してスミからスミまで、教科書の小さな文字で書いてある「注」のところまで覚え込む。

(6) 図や表も、意味をよく理解してからすべて覚える。

(7) 上から薄い紙をかぶせ、その上を鉛筆でなぞって、地図や生物などの図も覚えることが大事です。

(8) とにかく教科書のテスト範囲に書いてあることを「スミからスミまで全部」よく理解した上で覚え込むことが、テストの受け方です。

(9) テストであまりよい点数が取れない人には、とにかく大雑把にしか勉強していない人が多い。「スミからスミまで全部覚える」という「執念」、「情熱」が足りない人が多い。

(10) 受験生は、8月の開倫模試も、8月下旬の「業者模試」も、学校によっては9月に行われる「定期テスト」も、とにかく「スミからスミまで完全に覚える」を合言葉に勉強を進めて下さいね。

Q：最後に一言どうぞ。

A：(1) 「自分の未来は自分で切り開く」、「自分の身は自分で助ける(自助努力)」、「自分の行ったことは自分で責任を取る(自己責任)」ということばが、私は好きです。

(2) 「あきらめたらおしまい」、「くじけないで」ということばも好きです

(3) テストでよい点は誰でも取れます。暑い夏ですが、がんばりましょうね。

では、今日はこの辺で。

いじょう
以上

2011年8月8日(月)

学力の大幅向上のために、「自覚」をもって「勉強の仕方」を工夫し、
毎日「長時間」勉強を続けよう

開倫塾
塾長 林 明夫

Q：学力を、学校の成績と偏差値を、この夏の勉強で大幅に上げたいのですが、ポイントをまとめて教えて下さい。

A：(林明夫：以下省略)私は、「教育の成果」を決定する要因として、「本人の自覚」と「勉強の方法」、そして「勉強時間」が大事と考えます。

Q：「教育の成果」を上げるには、どうしたらよいのですか。

A：今まで通りにやっていたのでは、同じような結果しか出ません。結果を大幅によくしたいのであれば、「次の3点」について考え直し、「やり方」を変える以外にありません。「自覚をもって勉強すること」、「勉強の仕方を工夫すること」、「勉強時間を大幅に増やすこと」、この3点です。

Q：「自覚をもって勉強する」とは何ですか。

A：(1)もし皆様が、来年私立中学校入試や中高一貫校入試を受験する小学6年生、来年高校入試を受験する中学3年生、来年大学入試を受験する高校3年生でしたら、「受験生としての自覚をもって勉強する」ことです。

(2)「自覚をもって勉強する」ために一番よい方法は、「自分は という学校に合格する」と毎日自分に言い聞かせることです。紙に一日何回も「合格」と毎日書き続けて、受験生としての自覚を深めて下さいね。「に合格」しようと自覚し、念じると、自分の中にエネルギーが湧いてきます。受験勉強にターボ・エンジンがつきます。

(3)「に合格」しようと自覚して勉強すると、ただ何となく机に向かうのに比べ10倍ぐらい熱心になりますよ。

Q：受験学年以外はどうしたらよいのですか。

A：(1)受験学年以外の塾生の皆様も、「合格」と進学したい学校の名前を紙に毎日何回も書き続けて下さい。

(2)「私は脳外科医になる」、「私は外交官になる」、「私は原子力技術者になる」、「私は森林を守る」、「私は弁護士になる」、「私は海外で活躍をする」、「私は学校の先生になる」などと、具体的な職業名や、やりたいことを紙に毎日何回も書き続けることも、「自覚をもって勉強する」ことになります。

Q : 「^{じかく}自覚」をもつとどうなるのですか。

A : (1) 「^{じかく}自覚をもつて^{べんきよう}勉強」をスタートすると、^{はげしいべんきよう}どんなに激しい勉強をしても^{くるしい}苦しいことはありません。もっとも^{べんきよう}勉強したくてたまらなくなります。

(2) ^{べんきよう}勉強時間が^{ねむる}どんどん長くなります。「^{ねむる}眠る時間」と、^{しょくじ}食事や^{にゆうよく}トイレ、^{せいそう}入浴、^{かるいうんどう}清掃、^{ひるね}軽い運動、^{ひるね}昼寝など「^{ひつよう}生活に必要な^{いがい}時間」以外のすべての時間は、^{つくえ}机に向かいたくなります。^{べんきよう}勉強したくなります。^{つくえ}机に向かわなくても、^{べんきよう}時間を見つけ出して、^{べんきよう}立っ^{べんきよう}ていても勉強するようになります。

Q : そんなことがあるのですか。この世の^{よのなか}中にそんな人がいるのですか。

A : 「^{ごうかく}合格」、「^ななる」、「^なを成し^{とげる}遂げる」など、^{もくてき}自分なりの目的(ゴール)をもつて朝から晩まで^{べんきよう}勉強する人は、この世の^{よのなか}中に^{やまほど}山程います。今までにも^{みなさま}いました。皆様は、そのような人々を知らないだけです。

Q : どこにいるのですか。

A : (1) ^{われわれ}我々の^{せんぱい}先輩の中にたくさんいます。

(2) ^{たとえ}例えば、^{けいおうぎじゆく}慶應義塾の^{そうししや}創始者の^{ふくざわゆきち}福沢諭吉先生は、^{べんきよう}どのように勉強したか。どこの学校の^{図書室}図書室にも、どこの^{としよかん}公立図書館にもある^{ふくざわ}福沢先生の^{じじよでん}自叙伝、つまり、^{ごじぶん}御自分の^{しる}一生を書き記した「^{ふくおうじでん}福翁自伝」をお読みになると、^{おがたこうあん}よくわかります。^{かい}緒方^{おおさか}洪庵先生の^{おおさか}開いた^{おおさか}大阪(今の^{おおさか}大阪)の^{てきじゆく}「適塾」での^{ふくざわ}福沢先生を^{じゆくせい}はじめとする^{べんきよう}塾生の^{あつかん}勉強の^{ぜひ}すさまじさは^{あつかん}圧巻です。^{ぜひ}是非この^{ぜひ}夏、^{ふくおきなじでん}お読み下さい。「^{ふくおきなじでん}福翁自伝」は、^{じゆくせい}やさしく^{かならず}書き直した^{じしん}本が^{はげまし}かなり^{ふるいたた}出ていますので、^{すばらしい}小学生でも十分^{じじよでん}読めます。中学3年生や^{じゆけんせい}高校3年生などの^{かならず}受験生は^{じしん}必ず^{はげまし}読んで、^{ふるいたた}自分自身を^{ふるいたた}励まし、^{ふるいたた}奮い^{ふるいたた}立たせて下さいね。^{すばらしい}素晴らしい「^{じじよでん}自叙伝」です。

(3) ^{ふくざわゆきち}福沢諭吉先生の「^{ふくおきなじでん}福翁自伝」以外にも、^{いがい}学校の^{としよかん}図書室や^{れきし}公立の^{ゆうめい}図書館にある^{ゆうめい}歴史上有名な人の「^{じでん}自伝」や「^{じじよでん}自叙伝」は、「^{じかく}自覚をもつて^{べんきよう}勉強する」ことを^{めざす}目指すすべての^{じゆけんせい}受験生に、^{じゆけん}受験学年以外^{いがい}の開倫塾のすべての^{みなさま}塾生の^{やく}皆様に^{やく}役に立ちます。

(4) ^{いせき}トロイの^{はつけん}遺跡を発見した^{こだい}シュリーマンの「^{じょうねつ}古代への^{かんぞう}情熱」や、^{だいいようてき}内村鑑三先生の^{さんぶさく}代表的3部作「^{あまり}余は^{いかに}如何にして^{だいひようてき}キリスト教徒になり^{さうせい}にしや」、「^{さうせい}代表的日本人」、「^{さいだいいぶつ}後世への^{さいだいいぶつ}最大遺物、^{ぜひ}デンマルク国の話」は、^{ぜひ}是非お読み下さい。

(5) ^{じでん}小学生の^{じじよでん}コーナーにある「^{じでん}自伝」や「^{じじよでん}自叙伝」を、^{だいがくいんせい}中学生や^{いちど}高校生、^{いちど}大学生や^{いちど}大学院生、^{いちど}一度社会に出た人^{べんきよう}や^{べんきよう}リタイアした人が^{つづける}読んで^{いみ}ても役に立ちます。人生とは何か、^{いみ}勉強し^{いみ}続ける意味とは何かを^{いみ}考えるのに、^{ねんれい}学年や^{まつたくかんけい}学校、^{まつたくかんけい}年齢は^{まつたくかんけい}全く関係ありません。

(6) ^{うつのみや}宇都宮市^{いらい}教育委員会の^{いらい}依頼で6月22日と7月6日の2日間、^{いらい}午前10時から^{いらい}正午まで、^{いらい}宇都宮市^{いらい}生涯^{いらい}学習センターで、^{いらい}社会人の^{いらい}皆様60名に対して「^{いらい}論語」の^{いらい}講義を^{いらい}させて^{いらい}頂きました。孔子の^{いらい}生涯を^{いらい}振り返りながら、^{いらい}孔子の^{いらい}教えを^{いらい}伝える「^{いらい}論語」を^{いらい}読み^{いらい}進めるうちに、^{いらい}人間として^{いらい}大切なことは^{いらい}何か、^{いらい}なぜ^{いらい}勉強しなければ^{いらい}ならないかを^{いらい}深く^{いらい}考え^{いらい}させられました。勉強は、^{いらい}勉強する^{いらい}意味や^{いらい}目的が^{いらい}はっきり^{いらい}すれば^{いらい}するほど、^{いらい}もっとも^{いらい}っと^{いらい}したくなる^{いらい}ものです。私は、

「論語」の講義の準備をし、また、お話をしながら、あまりにも勉強不足だ、自分は何もわかっていない、もっともっと勉強しなければと痛感しました。

(7) 塾生の皆様は、「とりあえず」自分の行きたい学校に合格するために「合格」と紙に毎日書き続けて「自覚」を深めて下さい。

(8) 高校3年生は来年春にはちょっと間に合わない方が多いと思いますが、「東京大学合格」、「東京工業大学合格」、「京都大学合格」、「慶應義塾大学合格」、「早稲田大学合格」、「ICU合格」などと紙に毎日書き続けられ、何年か後に必ず合格します。小学生や中学生、高校生のうちから「
になる」、「のために生きる」と紙に毎日書き続けられ、夢は必ず実現します。「ボーッ」と過ごしていたら、それらが実現することはまずないと考えます。

(9) 「自己責任」、「自助努力」、「自分の人生は自分で切り開く」。そのための第一歩が、「自覚をもって勉強する」です。勉強は自分のためにするものですからね。

<御参考> 福沢諭吉先生の「独立自尊」とは

(1) お話がここまで進んできましたので、福沢諭吉先生が唱えられた「独立自尊」とは何かについて、皆様とご一緒に考えていきたいと思ひます。

(2) 独立自尊についての次の考えは、私が慶應義塾大学法学部法律学科の学生であったときの法学部長で、後に塾長(普通の大学の学長にあたる人)になられた石川忠雄先生のものです。

『独立自尊についての石川さんの解説ほど分かりやすく、ストンと胸に落ちるものはない。

独立自尊とは第一に、人を頼りとしなないということだ。自分で考え、自分で判断し、自分で実行できる人、そうなることが独立自尊の人になるということである。

第二に、自分で考え、自分が実行したことなのだから、その結果については自分が責任を負うということである。世の中が悪いからこうなったという人がいるが、第一義的には、自分に責任があるのだ、その責任を負い得る人間でなければならない。

第三は、結果についての責任を負うためには、強い心を持っていなければならない。本当の強い心とは、人を思いやる優しさに裏付けられた時に生まれる。

第四に、自らを尊敬すること、自らを卑しめないことである。自分を卑しめないということは、他人も卑しめないということである。』

人はどう生きるべきなのか。誰もが理解できる平易な言葉で説かれている。

石川さんは、学生によくこう言ったという。

『自分の人生にとって何が良くて何が悪かったかは、死ぬ時になってみないと分からない。た

だ、自分にとっての^{しんじつ}真実、それはその時を精一杯^{せいいつぱい}生きることだ。何が^{しあわせ}幸せで、何が^{ふこう}不幸かを見通して生きるといっても、そんなことはできっこない。だから今を一生懸命^{いつしようけんめい}生きること考えなさい』

石川さんの^{まつてい}末弟で慶應義塾^{けいおうぎじゆく}大学名譽教授^{めいよきやうじゆ}の石川明^{かいそう}さんが回想している。

『兄は、自分にとっていちばん^{だいじな}大事なのは家族^{かぞく}だ、次に大事なのは慶應義塾^{けいおうぎじゆく}だと最初^{さいしよ}から最後^{さいご}まで言っていました』

*以上、橋本五郎^{いじよう}著「^{はしちごろうちよ}範は歴史^{はん}にあり」藤原書店^{ふじわら} 2010年1月30日刊^{につかん} 304 ~ 305 ページより引用

(3)以上が、福沢諭吉^{いじよう}先生の「^{ふくざわゆきち}独立自尊^{どくりつじそん}」の考え方を後の塾^{じゆくちよう}長である石川忠雄^{ただお}先生がやさしく説き直してくれたものです。それを、読売新聞^{よんべいしんぶん}の論説委員^{ろんせついゐん}の橋本五郎^{はしちごろう}さんが本に書いてくれました。人間は、自分自身^{じしん}が独立^{どくりつ}して、責任^{せきにん}をもって行動^{こうどう}してはじめて、自分自身^{じしん}を尊ぶ^{とうぶ}ことができる。自分自身^{じしん}を尊^{とうぶ}んではじめて、他人^{たにん}を尊^{とうぶ}ぶことができる。「独立自尊^{どくりつじそん}」とはこのような考えではないかと、私^{わたし}はいろいろな先生方からの教え^{うけ}を受けて考えています。皆様^{みなさま}はどうお考えになりますか。

Q : 「自覚^{じかく}をもって勉強^{べんきよう}する」という意味^{いみ}がよくわかりました。「自覚^{じかく}をもって勉強^{べんきよう}する」ようになればなるほど、勉強^{べんきよう}する目的^{もくてき}がはっきりしますから、「勉強^{べんきよう}時間が長くなる」こともわかりました。

それでは、最後^{さいご}に残^{のこ}った「勉強^{べんきよう}の仕方^{しかた}を工夫^{くふう}する」にはどうしたらよいか教えて下さい。

A : (1)それは素晴らしい質問^{しつもん}ですね。(It is a very good question!!)まずは、自覚^{じかく}をもち勉強^{べんきよう}の目的^{もくてき}をはっきりする。次に、その目的^{もくてき}を自分の力^{ちから}で成し遂^なげる・達成^{たつせい}するために勉強^{べんきよう}時間をどんどん長くする。ここまでではO.K.だとしたら、最後^{さいご}に残^{のこ}る課題^{かだい}は「効果^{こうか}の上^{うへ}がる勉強^{べんきよう}方法^{ほうほう}」となります。

(2)私^{わたし}は、学習^{がくしゆう}を3段階^{さんだんがい}に分けるとわかりやすいと考えます。まず、「うんなるほど」と「よくわかる」つまり「理解^{りかい}」する段階^{だんがい}。次に、よく「理解^{りかい}」したことをスミからスミまで身につける「定着^{ていちゃく}」の段階^{だんがい}。最後^{さいご}は、「理解^{りかい}」し「定着^{ていちゃく}」したことを用いて「学校^{せいせき}での成績^{こうじゆう}を向上^{こうじゆう}させる」、「希望^{きぼう}する試験^{しけん}に合格^{ごうかく}する」、「世^よの中で用いる^{もち}」ことができる、つまり「応用^{おうよう}」の段階^{だんがい}。

(3)このように、学習^{がくしゆう}を「理解^{りかい}」、「定着^{ていちゃく}」、「応用^{おうよう}」の3つの段階^{さんだんがい}に分け、それぞれにふさわしい勉強^{べんきよう}の方法^{ほうほう}を工夫^{くふう}すると、効果^{こうか}の上^{うへ}がる勉強^{べんきよう}ができると思^{おも}いました。

(4)その1つ1つの内容^{ないよう}は、今回の「2011年夏塾^{じゆくちよう}長特別講義^{とくべつこうぎ}」シリーズの中でかなり詳しくお話しせて頂きましたので、よくわからない方は、何回も繰り返して私^{わたし}の文章^{ぶんしやう}をお読み下さい。

(5)開倫塾^{かいりんじゆく}の先生方^{せんせい}もこの「学習^{がくしゆう}の三段階理論^{さんだんがいりろん}」を塾生^{じゆくせい}の皆様^{みなさま}や保護者^{ほごしや}の皆様^{みなさま}に何回も繰り返して御説明^{ごせつめい}させて頂^{いた}いでいると思^{おも}いますので、開倫塾^{かいりんじゆく}の先生方^{せんせい}の説明^{せつめい}を思い出しながら、私^{わたし}の今回の塾^{じゆくちよう}長特別講義^{とくべつこうぎ}の内容^{ないよう}をお読み下さい。

(6)近日中^{わたくし}(8月中)に、私^{わたし}がCRTラジオ栃木放送^{とちぎほうそう}で今年の1月1日から3回お話しした内容^{ないよう}に大幅^{おおはば}

かひつ くばり じゆくちようとくべつこうぎ ぜ ひ
加筆をしたものをお配りいたしますので、この「2011年夏塾 長特別講義(1)～(15)」とともに、是非
ご熟 読下さい。

(7) 開倫塾のホームページ(www.kairin.co.jp)の「塾 長林明夫」のコーナーに、「学 習の三段階理論」
についての私 の文章がかなり掲載されていますので、是非御覧下さい。同じような内容ですが、「学 習
の三段階理論」も少しずつ「進化」していることがおわかりになると思います。

(8) 「勉強の仕方」がわからずに困っている方が多いと聞いて、それならばと決意してまじめ始め、塾 生
の皆様、保護者の皆様、教 職 員の皆様にまずは御覧頂いただいた後、私 が書いたもののほとんど
すべてをホームページで公開させて頂いています。世の中で少しでもお役に立てて頂ければ、こんな
幸せなことはないと思います。

(9) 毎週2～3万人の方々がお聞き下さっているCRTラジオ栃木放送の「効果の上がる学 習方法」を
お伝えする世界で唯一の番組である「開倫塾の時間」も、このような考えで25年間ほぼ一人で放送
しています。

Q：なるほど。塾 長は、まさに「一所懸命(一つの所で命を懸けるくらい熱心)」に「学 習の三段階理論」
を塾 生だけでなく、保護者、地域社会の皆さん、教 職 員の皆さんに伝え続けているのですね。最後
に一言お願いします。

A：(1) このように学力を飛躍的に高めるためには、「本人が自覚」をもって、「勉強方法」を工夫し
ながら、「長時間」勉強することが大切です。

(2) 学力の高い人に共通して言えることは、
「読書による思慮深さ」を身につけていること、
「学び方を学ぶ能力」を身につけていること、つまり「効果の上がる勉強の仕方を身につけ
ていること、
この2つであると言われていています。(OECDのPISA調査の結果)

(3) 新聞を読むことを含めた「読書」と、「勉強の仕方」を身につけることの大切さをお伝えして、
今日のお話を終わりたいと思います。

本日も長い文章をお読み下さってありがとうございます。
では、今日はこの辺で。

いじよう
以上

2011年8月9日(火)

テスト直後の勉強方法を考える

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：模擬試験はじめ様々なテストが終わった直後は、どのような勉強をすればよいのですか。

A：(林明夫：以下省略)これは素晴らしい質問です。(It is a very good question!!)

(1)今日は、開倫塾の多くの校舎では中学2年生、3年生の模擬試験が実施されていますので、とても素晴らしい質問だと思います。

(2)模擬試験が終了すると、解答が配られます。その「解答集の読み方」が大事で、すべてを決めます。

(3)ではどうするか。心を落ち着けて科目別に1つ1つの問題をまずはゆっくりと読み、学校や開倫塾の先生の授業を聞くようなゆっくりさで、ゆっくりと一語一語かみしめながら「解説文」を読む。「ああそうなのか、これはこういうことだったのか」と「納得」するまで、ゆっくりと読むことです。

(4)解説文を読んでいて、大事なところには、うすい色の「マーカー」や「色えんぴつ」で「印」をつけていく。「間違えた問題」には、「問題文」と「解説文」に「間違いマーク」をつける。「よくわからない」ところには、「よくわからないマーク」を決めてつけておく。

(5)なぜ間違えたのか、その「理由」を自分で追究する「誤答分析」を行う。

よくわからないからできなかったのは「理解」不足なので、「学校」の教科書や「開倫塾」のテキスト、各科目の「学年別の参考書」、各科目の「用語集」などを用いてよく調べ、「理解」につとめる。必要なことは「ノート」にメモしておく。

うる覚えや計算ミス、パターン練習不足なら、「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」をその場で繰り返し、スラスラできるまでにしておく。

全く歯が立たないものは、「間違いノート」というノートを作り、「正解」や「解説」をそっくり書き写す。

この「間違いノートづくり」については、開倫塾教務部長の渡辺博先生の指導通りに行ってください。(別のプリントを御覧下さい)

(6)テストは終わった後が大事です。テストが終わった後、できた、間違えたと「一喜一憂」しても学力

みにつき いじょう べんきょう つぎ じょうしやう
は身につけません。以上のような勉強をしてはじめて、次のテストで大きく点数が上昇します。
いじょうです
以上です。わかりましたか。

Q : はい、よくわかりました。

A : (1) 今まで2～3週間、開倫塾の塾生の皆様はよく勉強しました。立派です。この塾長特別講義
ぶんしやう
の文章も、今日までよくお読み下さいました。ありがとうございました。

(2) ただ、夏休みはまだ半分残っています。これから勝負です。お盆特訓のある受験生はすべての科目とも必ず参加し、さらに力をつけて下さい。

(3) お盆特訓のない学年の塾生の皆さんは、8月分授業までに、本日の模擬テストの内容も含め
かいりんじゆく かきこうしゆうかい
開倫塾の夏期講習会のテキストを、文字通りスミからスミまですべて身につけて下さいね。この夏の勉強が、秋からの学力の大幅な飛躍に必ず直結します。

(4) 日本国内には、この暑い中で避難所暮らしをしている方がたくさんいらっしゃいます。また、
ほうしやのう
放射能におびえながら家の中にこもって生活している方もおられます。

(5) いろいろな人々のつらい立場を考えて、今自分がしなければならないことは何かを考えながら
すこし
毎日を過ごして下さい。

(6) 夏期講習会に引き続いて行われた模擬試験を受けたばかりの塾生の皆様は、頭の中がフル
かいてん さえわたつ
回転し、冴え渡っています。こんな時こそ、自分のやりたい勉強をやりたいだけやる最大のチャンスです。

読みたい本を読みたいだけ読む最大のチャンスです。今は夏休み、しかもこれから先は
よのなか おぼんやすみ
世の中はお盆休みです。時間を自分で作り出して、やりたい勉強をやりたいだけやる、
読みたい本を読みたいだけ読むことをお勧めします。

かきこうしゆうかい もぎしけん さえわたつ べんきょう さいだい べんきょう
夏期講習会と模擬試験で頭が冴え渡っている今が、勉強と読書の最大チャンス。勉強も読書もどんどん進むはずです。

(7) 私の2011年夏塾長特別講義も、夏休みの前半のお話はこれでおしまいです。本当に皆様よ
く勉強しましたね。

では、またお会いしましょう。

いじょう
以上